

NLE Yokohama		Sakura 6 取り扱い説明書 - 取付け編	Technical Cataloge	
March 9, 2009			T 001 189 J	
R&D GN	Ver. 03		Page	1 / 43

NLE

YOKOHAMA JAPAN

Nippon Lifts Engineering Inc.

遠隔監視装置 Sakura 6

技術基準適合認定番号
A08-0133004

適用型番

DS6-P-*** Sakura 6 PHS回線タイプ
DS6-M-*** Sakura 6 NTT回線 (Modem)タイプ

注) 型番の***は, オプションを表す3文字の英字になります.
例: DS6-P-ABN PHS;外部アンテナ;電源付き

改版履歴(1/1)

Version	Date	Writer	Description
p0	2009/01/09	GN	Sakura6 Ver1 pre release
00	2009/02/19	SK	Sakura6 現場向けマニュアル編集
01	2009/03/09	SK	着信動作説明文の修正
02	2009/03/31	SK	外付けメンテナンススイッチ 追記
03	2010/03/08	SK	アナログPAUの注意事項、インターフォン真理値記載、アース線追記

目 次

1. 取付け手順 概要	5
2. 事前作業	6
2.1 センター側の登録	6
2.2 パラメータの設定	6
2.3 電話回線の準備	6
2.4 接続するインターフォン型式確認	6
2.5 基板の確認	7
3. 取付け作業	9
3.1 取付け場所の選定	9
3.2 本体取付け	9
3.3 アース線取付け	9
3.4 インターフォンとの接続	9
3.5 電話回線の接続	15
3.6 外付けメンテナンス スイッチの接続	16
3.7 監視信号の接続	17
4. 動作確認作業	18
4.1 電源の投入	18
4.2 音声着信確認	19
4.2.1 NTT回線	19
4.2.2 PHS回線	21
4.3 アナウンスの録音	24
4.4 音声発信確認	24
4.4.1 前準備/確認事項	24
4.4.2 発信動作・着信動作の確認	25
4.4.3 通話中の確認	28
4.5 保守開始・保守終了の確認	29
4.6 ポートアラームの確認	30
5. 終了作業	31
6. 設定作業	32
6.1 設定手順	32
6.2 設定コマンド	33
7. その他	36
7.1 バッテリー交換	36
8. インターフォン信号真理値表	37
8.1 6V単局/6V多局 LEDランプ動作表示	37
8.2 24V単局/24V多局 LEDランプ動作表示	38
付録1 装置仕様	39
付録2 特記事項	40
付録3 部品配置図	42

安全に関する表示について

・本製品を安全に正しくお使いいただくために、注意事項を次のような表示と図記号で表しています。ここで示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載しています。必ず守ってください。

・また、別資料「T001 187J NLE製品 取扱い説明書-安全のしおり」も併せてお読みください。

・表示と意味は次のとおりです。



危険

この表示を無視して誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。



警告

この表示を無視して誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して誤った取扱をすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

1. 取り付け手順 概要

Sakura 6を以下に示す手順で取り付けます。

STEP 1

事前作業 詳細は「2. 事前作業」を参照してください。
センター側の登録
パラメータの設定
電話回線の準備
基板の確認(ジャンパーピン, ディップスイッチ)

STEP 2

取付け作業 詳細は「3. 取付け作業」を参照してください。
取り付け場所の選定
インターフォンの接続
電話回線の接続
監視信号の接続

STEP 3

動作確認作業 詳細は「4. 動作確認作業」を参照してください。
音声着信動作
音声発信動作
保守開始発信, 保守終了発信
ポートアラーム発信

STEP 4

終了作業 詳細は「5. 終了作業」を参照してください。
バッテリー接続

2. 事前作業

2.1 センター側の登録

1) データベース登録

センター側データベースに以下の情報を登録しておく必要があります。

現場情報 (所有者名 , ビル名 , 機器情報)

端末情報 (SakuraID , ポートアラーム)

2.2 パラメータ設定

1) パラメータ設定

設定ツールを使用して各パラメータを設定しておく必要があります。

詳細は「T001 191J Sakura6 ver1 取扱い説明書-設定ツール編」を参照して下さい。

2) アナウンス録音

「現場名アナウンスの録音」及び「かご内アナウンスの録音」はDTMFコマンドでのみ可能です。

2.3 電話回線の準備

1) PHS回線の場合 (DS6-P-***)

PHS回線の開通事務手続を行っておく必要があります。

2) NTT回線の場合 (DS6-M-***)

開通済みのNTT回線を用意してください。

本装置のTELコネクターはRJ-11です。

一般の電話モジュラ-ケーブル(6芯)で接続することができます。

2.4 接続するインターフォン型式確認

1) 1台で下記に示す日本インターフォン社製インターフォンに対応(オール イン ワン)。

表2.4-1 対応するインターフォン

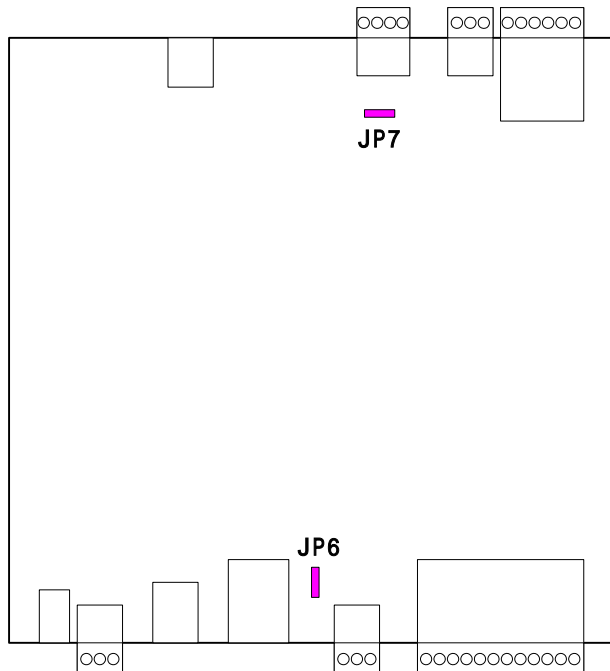
製造メーカ	種類		親/子	型番	接続数	備 考
日本インターフォン	6V	単局	親機	E-01MV/E-01MV2	1	
			子機	E-01RV(C)	1	
		多局	親機	E-06MV(2)	1	
			子機	E-06RC(C)	1 ~ 4	
	24V	単局	親機	EZ-01MV(2)	1	
			子機	EZ-RV(C)	1	
		多局	親機	EZ-05(10)MV	1	
			子機	EZ-RV(C)	1 ~ 4	
アイホン	-	-	-	-	-	未対応

2.5 基板の確認

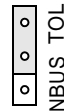


注意 本作業は電源及びインターフォンとの接続を行う前に行ってください。

1) ジャンパーピンの確認

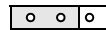


JP6: シリアル1の用途を指定します



TOL: 設定ツールで使用する。
NBUS: NLE-BUSで使用する。

JP7: シリアル2の通信方式を指定します



232 485

232: RS232C方式

485: RS485方式

図2.4.1-1 ジャンパーピン

JP6: シリアル1の用途

本装置では、意味を持ちません。

標準ではオープン(ジャンパーピン無し)となっています。

JP7: シリアル2の通信方式

本装置では、意味を持ちません。

標準ではオープン(ジャンパーピン無し)となっています。

2) デイップスイッチの確認と設定

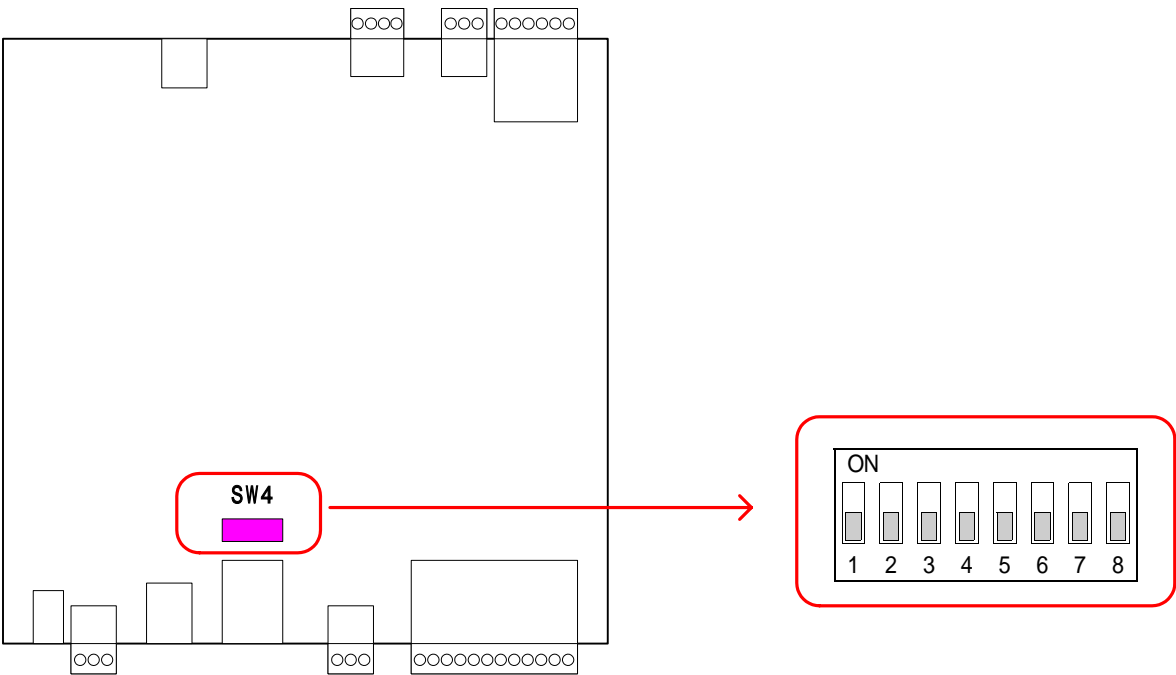


図2.4.2-1 デイップスイッチ

DSW -1 インターフォンの電圧を指定します .
OFF: 6V
ON: 24V

DSW -2 インターフォンの子機種種別を指定します .
OFF: 単局
ON: 多局

DSW -3 電話回線の種別です .
型番がDS6-M-***の場合は , OFF: NTT回線 になっていることを確認して下さい .
型番がDS6-P-***の場合は , ON: PHS回線 になっていることを確認して下さい .

注意
TELコネクターにアナログPAUを接続する場合は、DSW -3 (デイップスイッチ3) をOFF (NTT) に設定下さい .

DSW -4 ; DSW -5 ; DSW -6 ; DSW -7 ; DSW -8
本装置では必ずOFFにして下さい .

表2.4.2-1 デイップスイッチの設定パターン

種別			デイップスイッチ							
回線	電圧	局数	1	2	3	4	5	6	7	8
NTT	6V	単局	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
NTT	6V	多局	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
NTT	24V	単局	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
NTT	24V	多局	ON	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
PHS	6V	単局	OFF	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
PHS	6V	多局	OFF	ON	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
PHS	24V	単局	ON	OFF	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
PHS	24V	多局	ON	ON	ON	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF

3. 取り付け作業

3.1 取り付け場所の選定

1) 全般

- a. 直射日光が長時間あたる場所は避け下さい。
- b. 本体へ常に水がかかる場所は避けて下さい。

2) PHS回線の場合

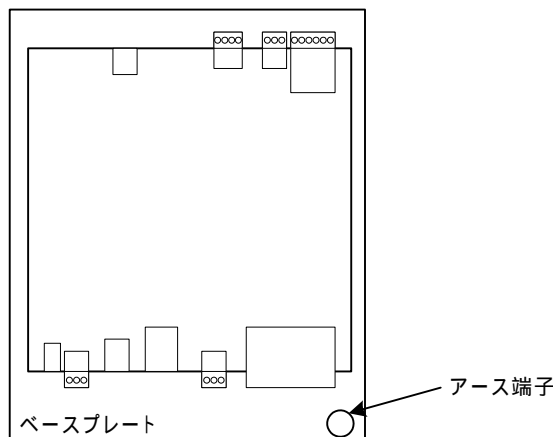
- a. 加入契約されたPHS事業者のサービスエリア内であること。
- b. 建築・構造物で電波が遮断されていないこと。
- c. 特に金属の壁面への取付は避けること。

3.2 本体取付け

本装置は壁取付け用に上部と下部に取り付け穴を用意しています。付属のネジで止めてください。

3.3 アース線取付け

本装置のベースプレート右下にアース端子を設けてあります。納品時は丸端子が取り付けられて居ます。建屋へのアース接続を行ってください。



3.4 インターフォンとの接続

1) インターフォン電圧の確認

6Vの場合、親機と子機で通話中のときインターフォン接続ケーブルの(-)と(+)間の電源電圧が5.0V(定格6V)以上であることをテスターで確認して下さい。

24Vの場合、親機と子機で通話中のときインターフォン接続ケーブルの(-)と(+)間の電源電圧が20V(定格24V)以上であることをテスターで確認して下さい。

2) インターフォンとの接続



注意

- a. 安全の為、インターフォン側の電源を切った状態で作業を行ってください。
- b. 使用する線は、単線/撚線 AWG#28-#16 1.5mm² 被服剥き処理 6-7mm
- c. インターフォンの端子と本装置の端子TB4を次ページ以降に示す接続図を参考にして接続してください。

図3.4.2-1 インターフォンを接続する端子(TB4)図

図3.4.2-2 インターフォン6V単局の接続図

図3.4.2-3 インターフォン6V多局の接続図(標準型)

図3.4.2-4 インターフォン6V多局の接続図(H型)

図3.4.2-5 インターフォン6V多局の接続図(RG2型)

図3.4.2-6 インターフォン24V単局/多局の接続図

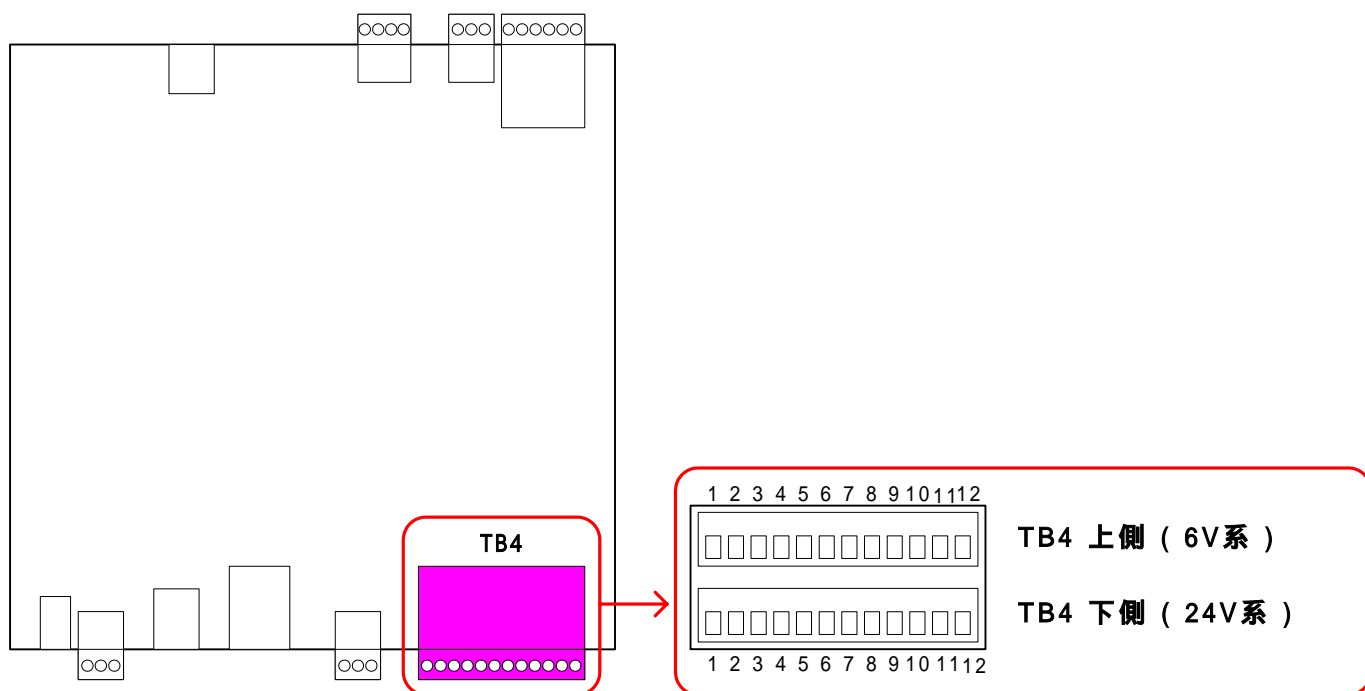


図3.4.2-1 インターフォン接続端子 (TB4)

表3.4.2-1 インターフォン接続端子の割り当て(TB4)

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
TB4-上側	6V系	L	R	-	+	C	M1	M2	M3	M4			
TB4-下側	24V系	+	-	L1	L2	1A	1B	2A	2B	3A	3B	4A	4B

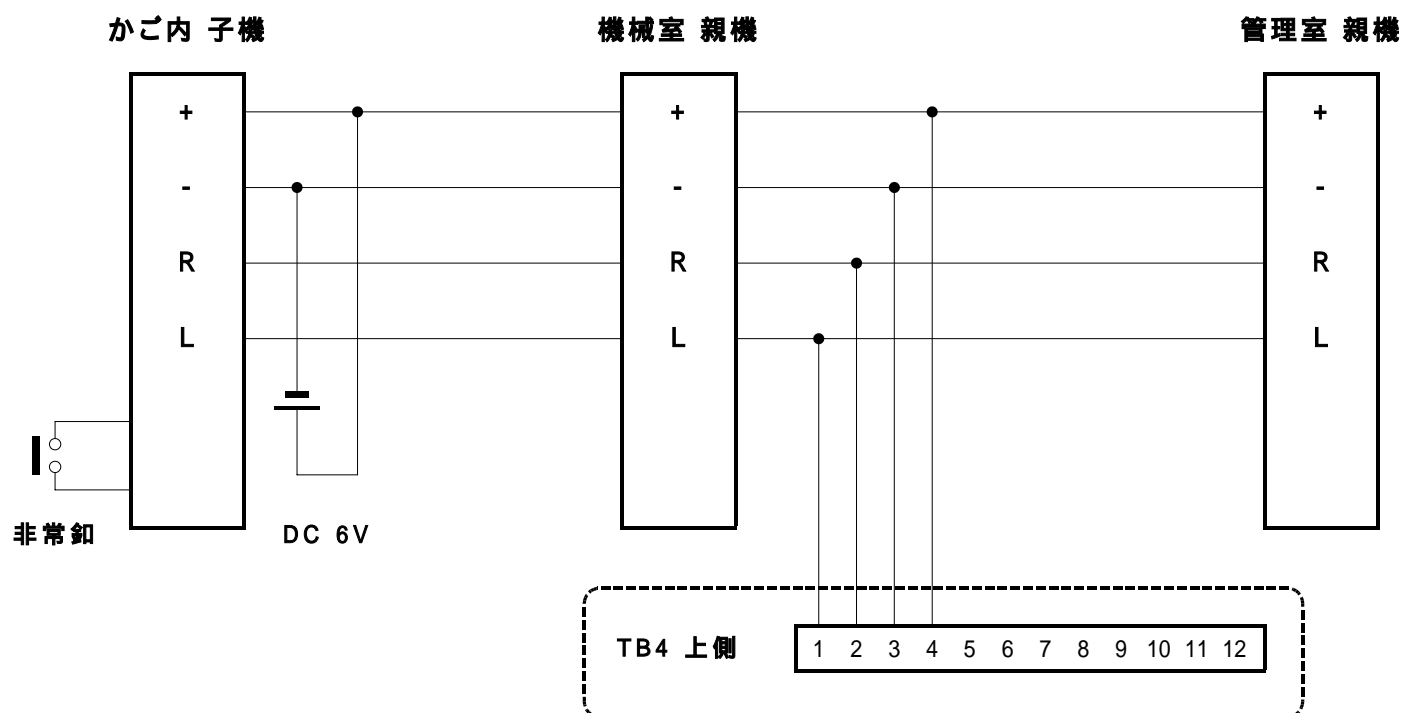


図3.4.2-2 インターフォン 6V単局接続図

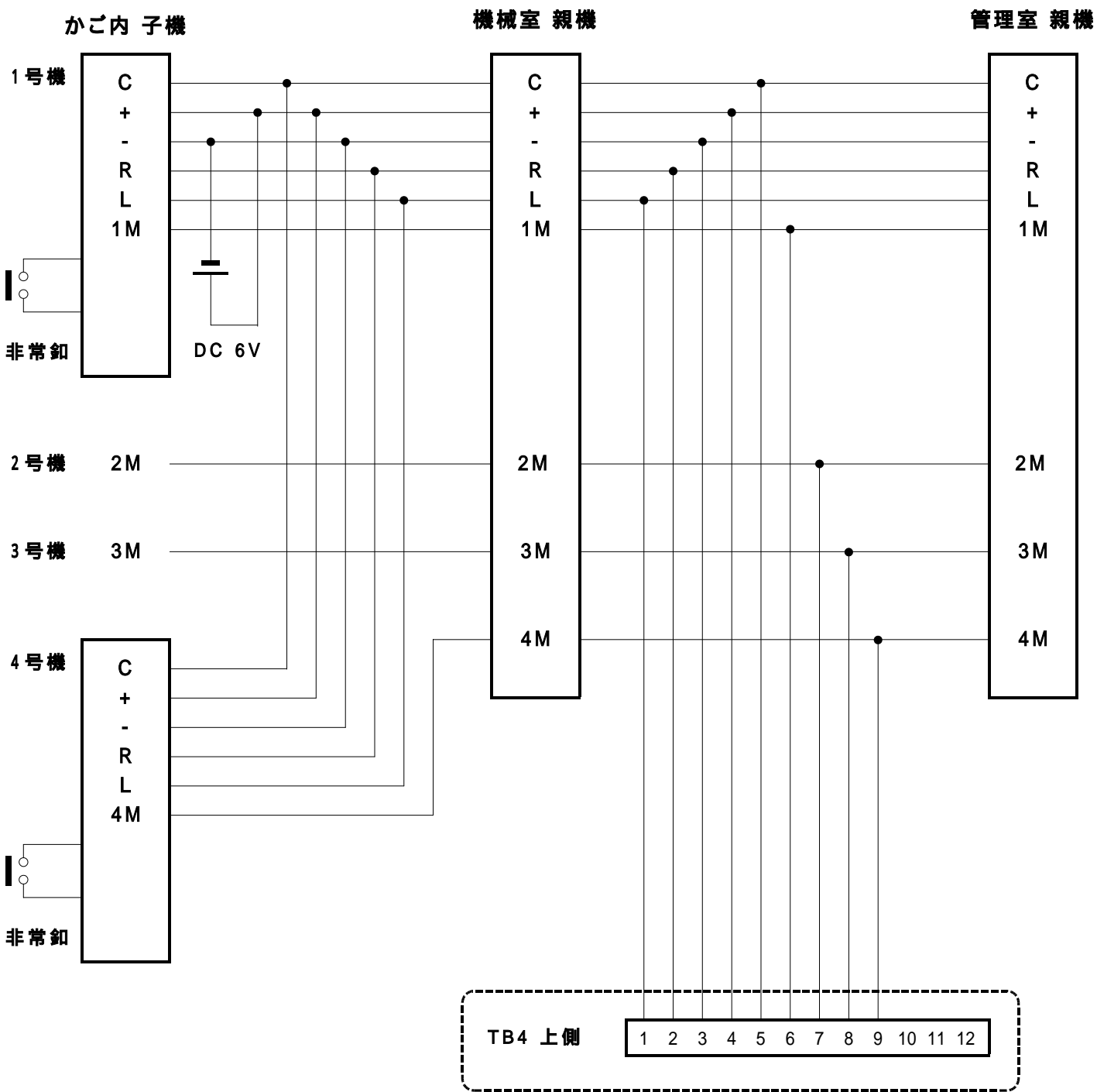


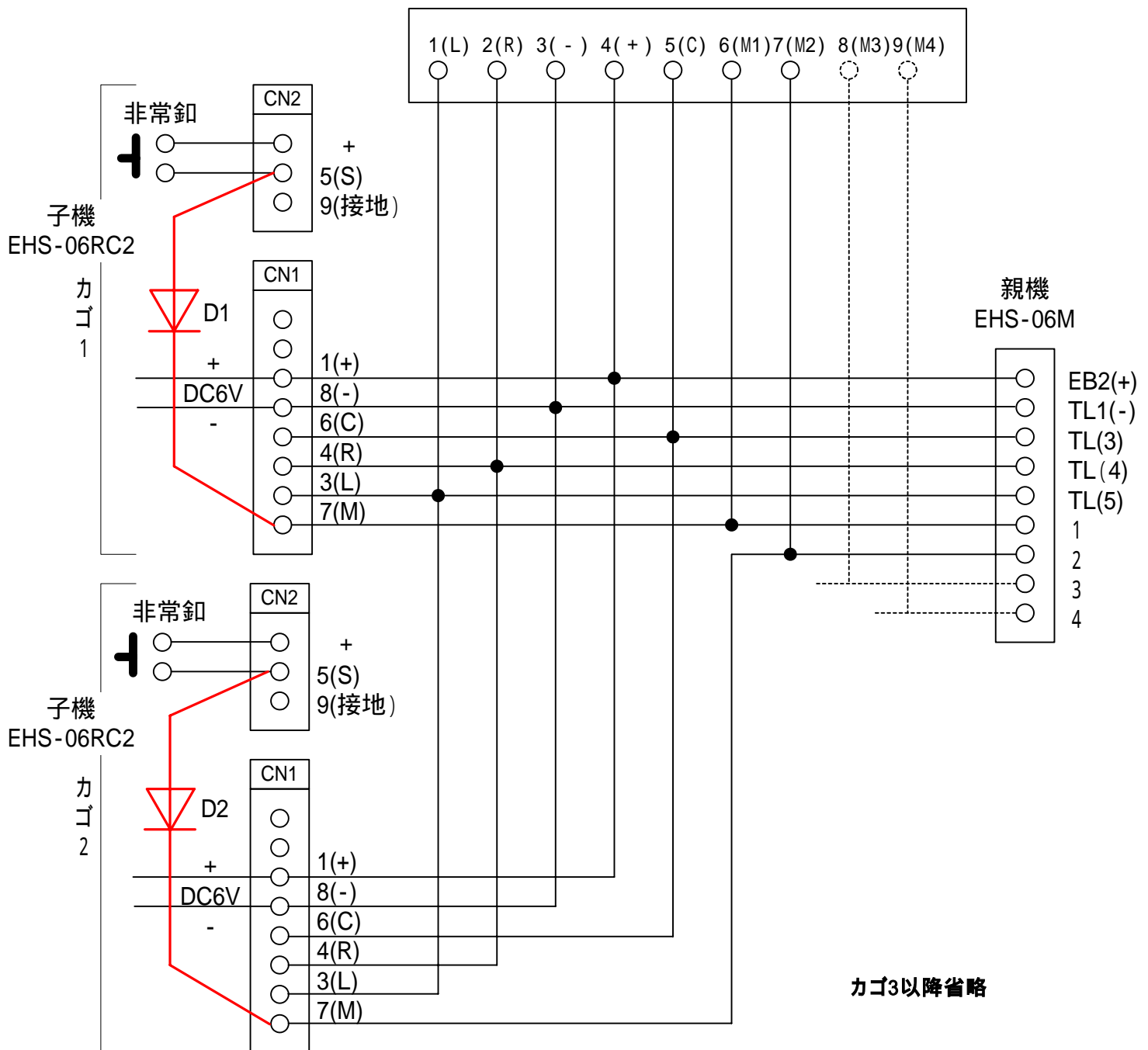
図3.4.2-3 インターフォン 6V多局接続図(標準型)

注)

H型の場合は、図3.4.2-4 インターフォン 6V多局接続図(H型) を参照して下さい。

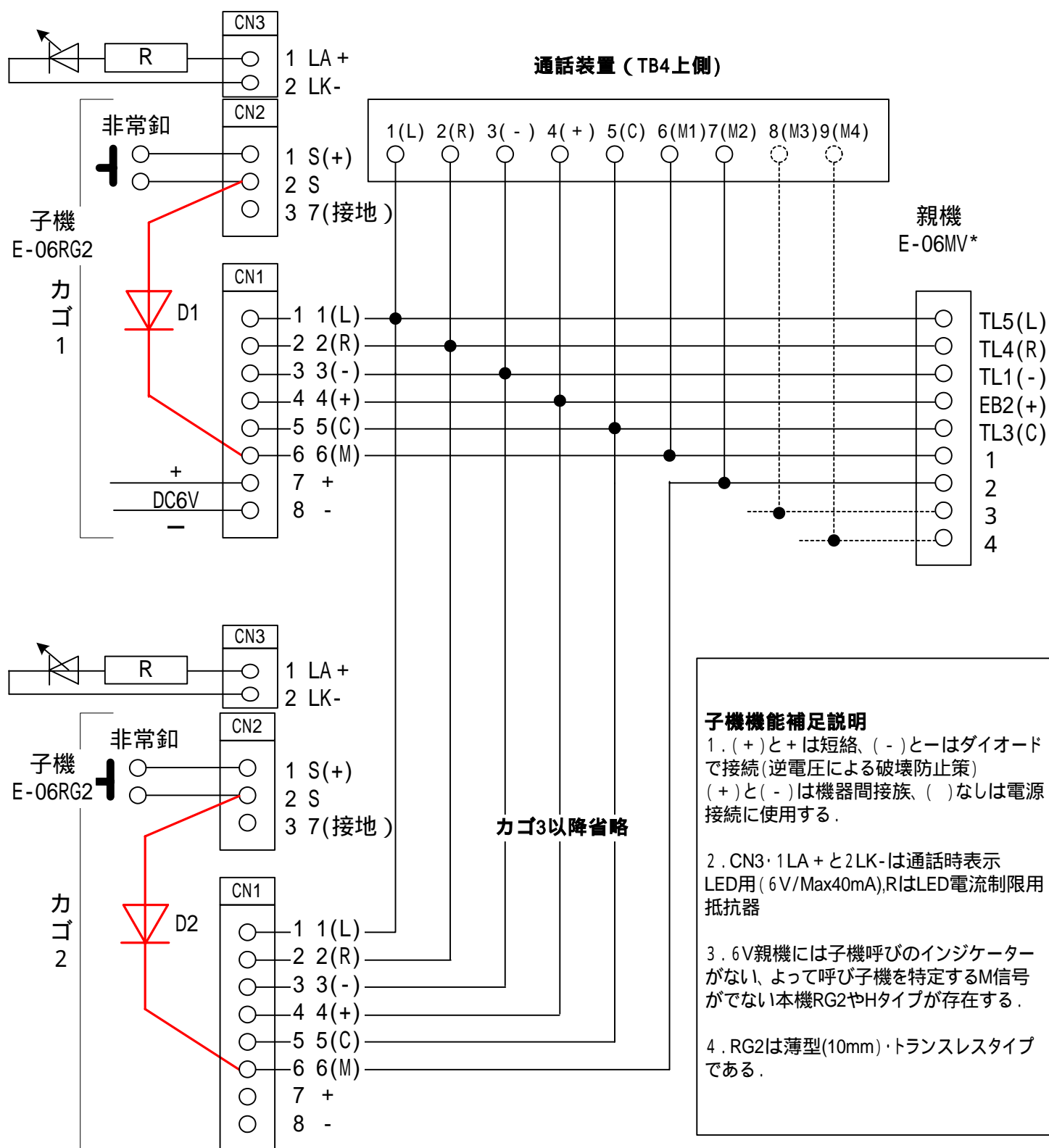
RG2型の場合は、図3.4.2-5 インターフォン 6V多局接続図(RG2型) を参照して下さい。

通話装置(TB4上側)



- 本図はEHS-06M EHS-06RC2インターフォンシステムを、当社通話装置に適用するための標準回路図である。
- 子機の非常釦を押下した場合の、その呼び選択信号Mを付加する回路図である。
- 朱書き部のD1、D2……ダイオードを追加する。
D1,D2: 逆電圧12V以上、順電流10mA、ダイオード1S1588相当(東芝)
- 本回路図は一例である。
本図を参考に実システム(実配線)に応じた追加工事を行うこと。

図3.4.2-4 インターフォン 6V多局接続図(H型)



- 本図はRG2形インターフォンシステムを、当社通話装置に適用するための標準回路図である。
- 子機の非常釦を押下した場合の、その呼び選択信号Mを付加する回路図である。
- 朱書き部 (CN2・2～CN1・6の間にD1、D2・・・ダイオードを追加する。
ダイオード仕様：逆電圧12V以上、順電流10mA。ダイオード1S1588相当(東芝))
- 本回路図は一例である。
本図を参考に実システム(実配線)に応じた追加工事を行うこと。

図3.4.2-5 インターフォン 6V多局接続図(RG2型)

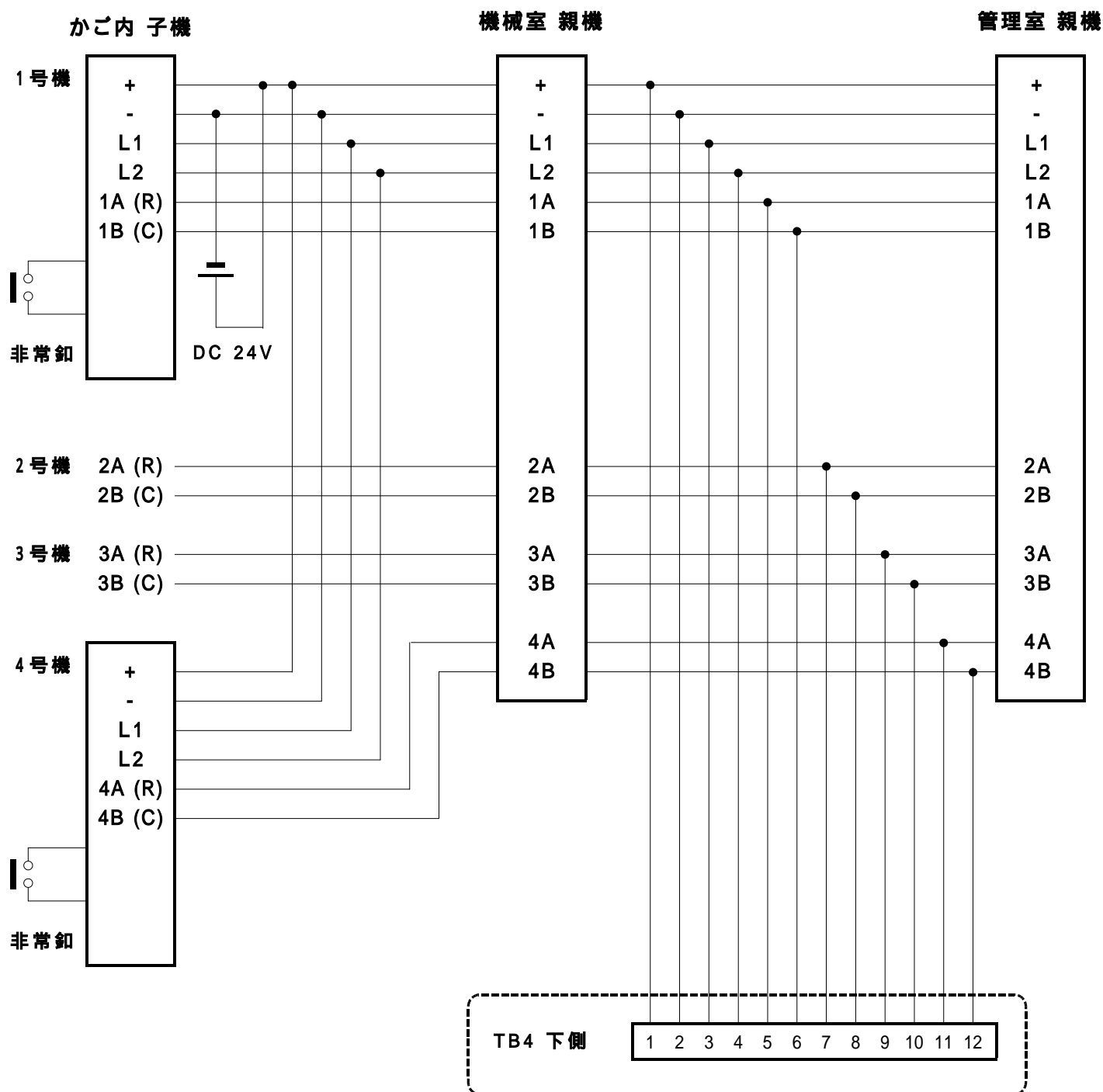


図3.4.2-6 インターフォン 24V単局/多局接続図

3.5 電話回線の接続

1) 電話回線の接続

a. NTT回線の場合(DS6-M-***)

CN3-TELに一般の電話モジュラ-ケーブル(6芯)を接続します。

b. PHS回線-内部アンテナの場合(DS6-P-N**)

PHSユニットに内部アンテナが接続してあります。

c. PHS回線-外部アンテナの場合(DS6-P-A**)

添付された外部アンテナをPHSユニットに接続して下さい。

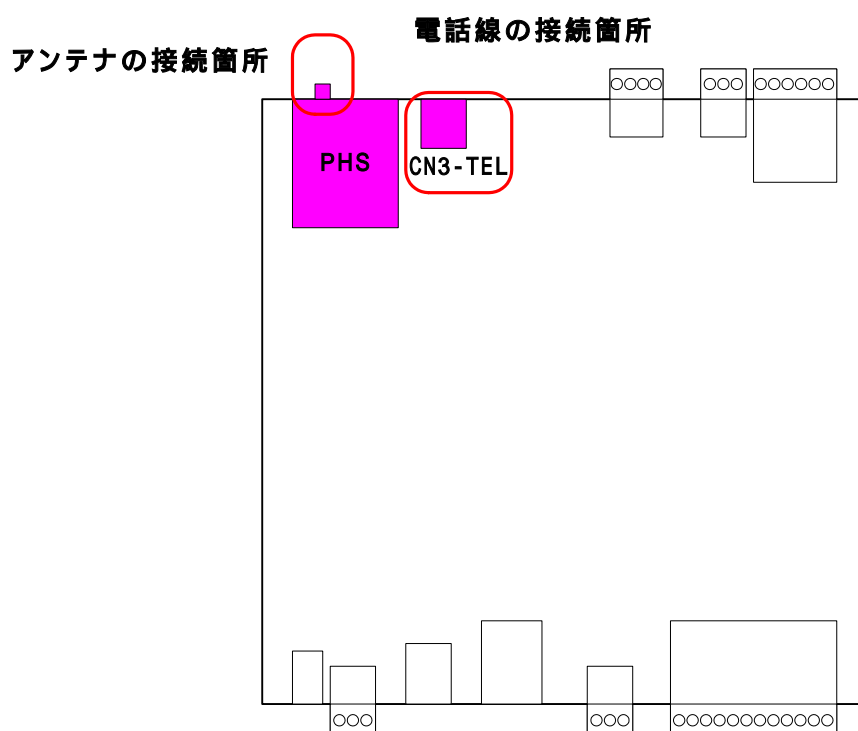


図3.5.1-1 電話回線関連の端子図

3.6 外付けメンテナンス スイッチの接続 (オプション)

1) スイッチとピンの接続

a. メンテナンス スイッチキットを下記の図の様にコネクタを接続します。(PIOは下段に取付)

b. メンテナンス スイッチキット付属のジャンパーピンを下記の2カ所に挿す。

ジャンパーピンDCOUTをONにジャンパーピンを挿す。

電圧設定の12にピンを挿す。

2) 設定ツールでのパラメータ設定

a. 設定ツールにて「メンテナンススイッチ形式」と「メンテナンススイッチ信号形式」の設定を外付けメンテナンススイッチに切り替えてください。詳細は「T001 191J Sakura6 取扱い説明書-設定ツール編」を参照してください。

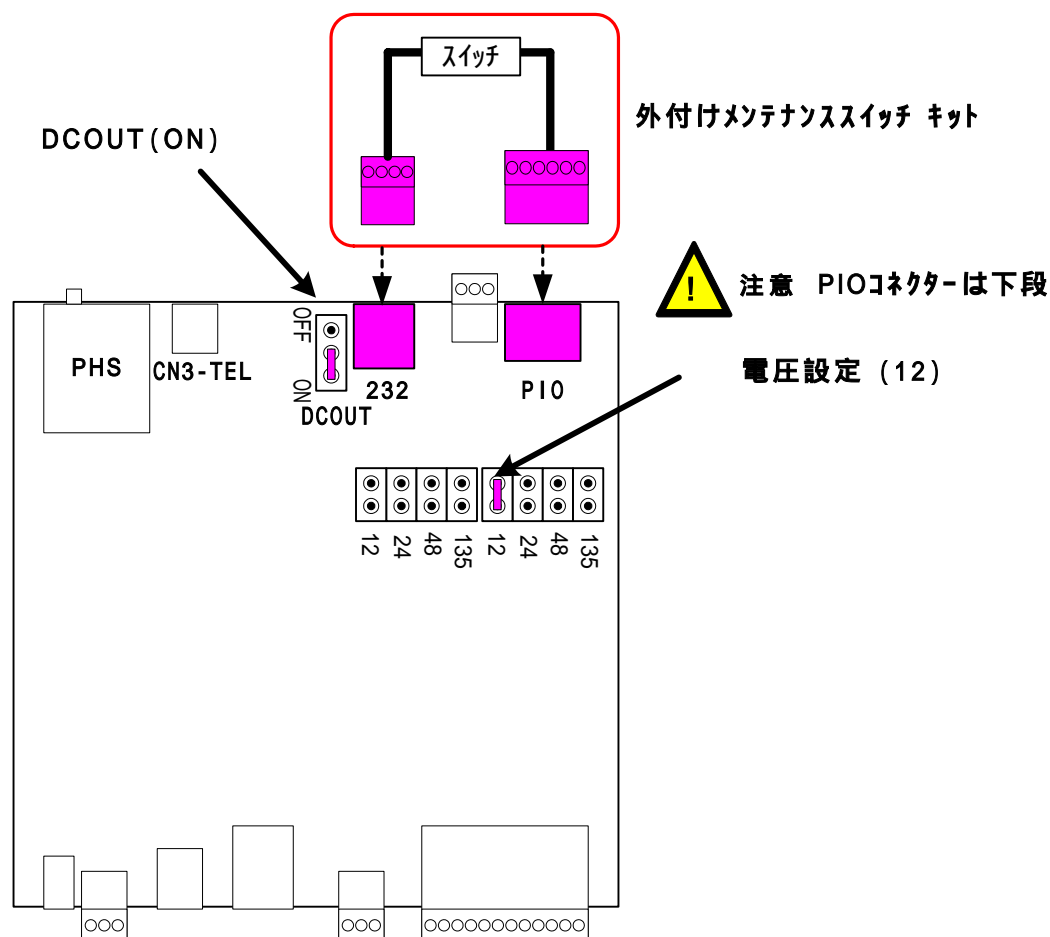


図3.6.2-1 外付けメンテナンススイッチの接続箇所

Note: スイッチを「O」側に倒すと、保守開始発信遅延時間後にセンターの監視PCに「保守開始」を発信します。
 スイッチを「」側に倒すと、保守終了発信遅延時間後にセンターの監視PCに「保守終了」を発信します。

3.7 監視信号の接続



注意 安全の為、制御装置側の電源を切った状態で行って下さい

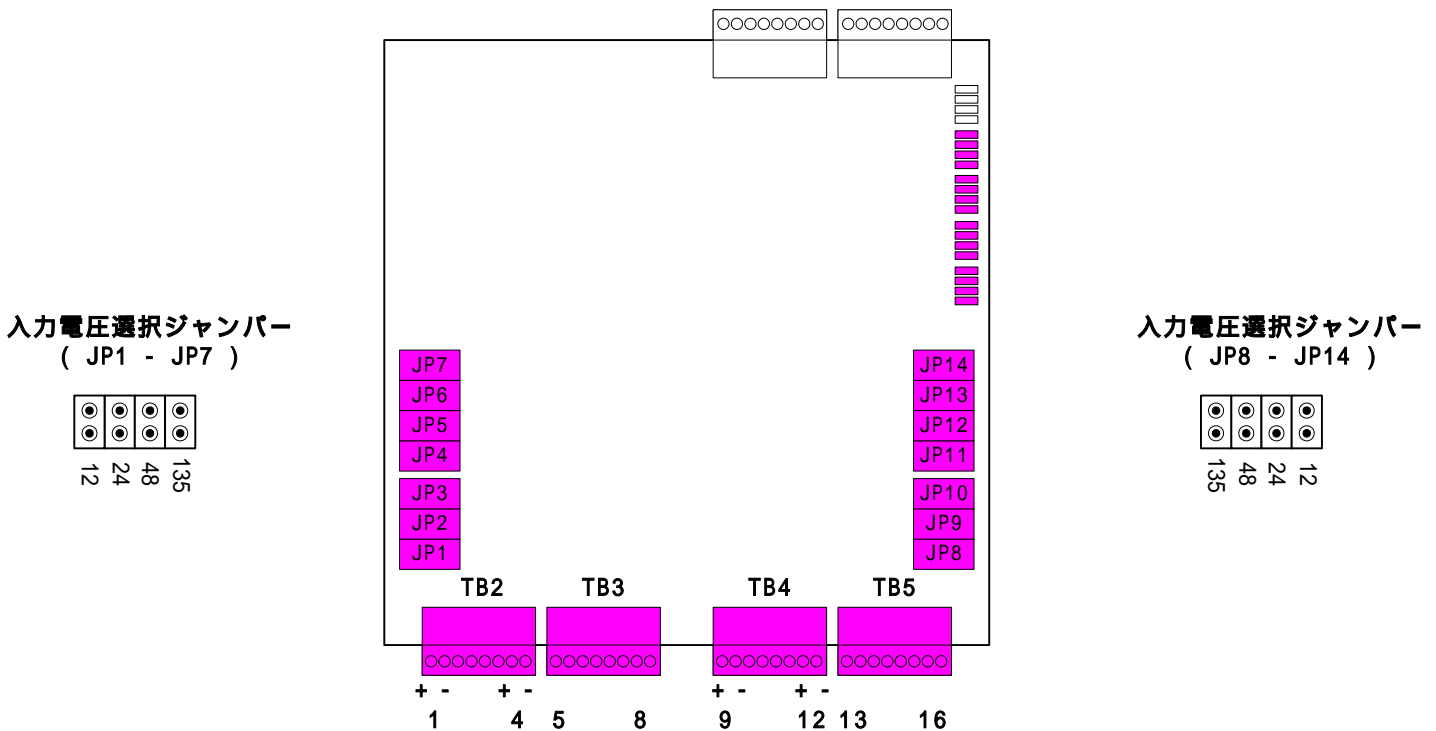


図3.7.1-1 監視信号接続関連図

- 1) 監視信号の電圧
- a. 表3.5.1-1に示すように接続可能な電圧はポートによって異なります。
 - b. ポート1とポート9は、115V～230V専用です。(AC/DC)
 - c. ポート1とポート9以外はジャンパーで入力電圧を選択できます。(AC/DC)
 - 12： 6V～12V
 - 24： 12V～24V
 - 48： 24V～48V
 - 135： 65V～135V
 - d. 監視する信号電圧に対応した選択をして下さい。誤った選択をした場合は、故障の原因となります。
 - e. ポートには極性がありますので+(プラス), -(マイナス)を間違わないように結線ください。



注意

表3.7.1-1 ポート毎の入力電圧

ポート	入力電圧	対応JP	端子番号	ポート	入力電圧	対応JP	端子番号
1	230V	-	TB2	9	230V	-	TB4
2	選択	JP1	TB2	10	選択	JP8	TB4
3	選択	JP2	TB2	11	選択	JP9	TB4
4	選択	JP3	TB2	12	選択	JP10	TB4
5	選択	JP4	TB3	13	選択	JP11	TB5
6	選択	JP5	TB3	14	選択	JP12	TB5
7	選択	JP6	TB3	15	選択	JP13	TB5
8	選択	JP7	TB3	16	選択	JP14	TB5

4 動作確認作業

全ての接続が正しく行われていることを確認後に、インターフォン及び制御盤の電源を投入して下さい。

4.1 電源の投入

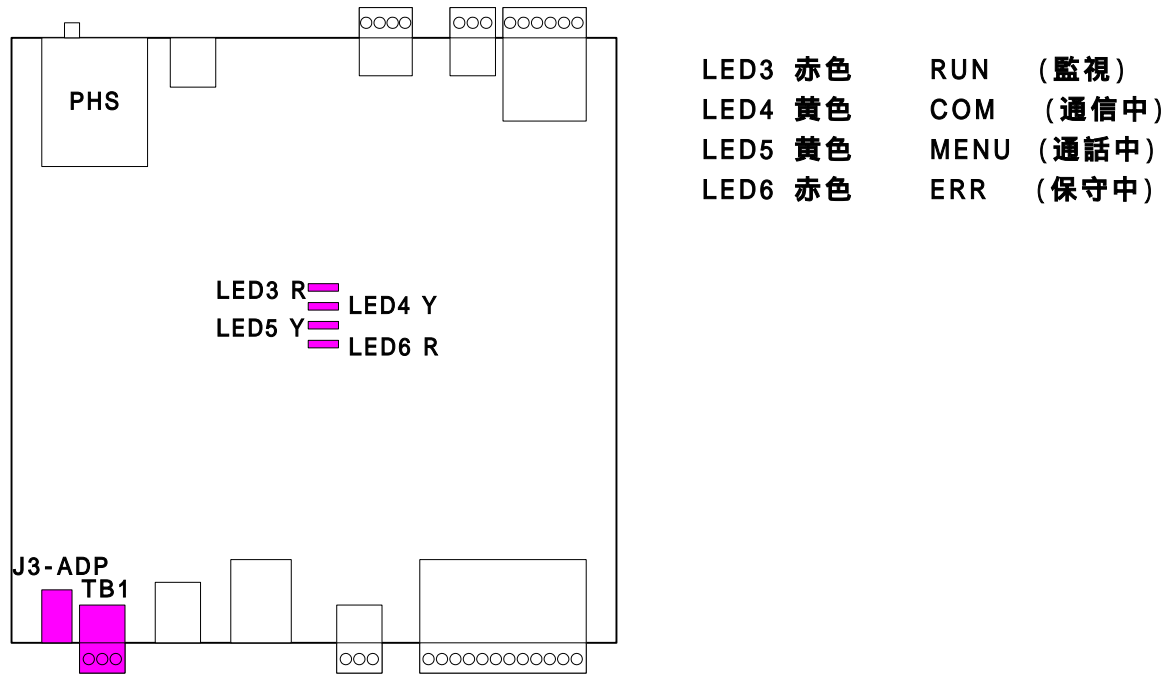


図4.1-1 実装図(電源,LED)

- 1) ACアダプター添付品の場合 (DS6-**-B*)
- J3-ADPに付属のACアダプターのジャックを差し込みます。
ACアダプターをAC100V電源に差し込みます。
- 2) ACアダプター未添付品の場合 (DS6-**-N*)
- DC9V供給元の電源がOFFになっていることを確認します。
TB1端子に DC9Vを接続します。
- a. TB1端子の接続側をとりはずします。
- b. 下図に従って、接続側プラグにDC9Vを接続します。
- | Pin | Label |
|-----|----------|
| 1 | +9V |
| 2 | GND |
| 3 | (Unused) |
- 1 2 3
- c. 接続が正しいか確認します。
- d. 接続側プラグをTB1端子に差し込みます。
DC9V供給元の電源をONにします。

4.2 音声着信確認

4.2.1 NTT回線

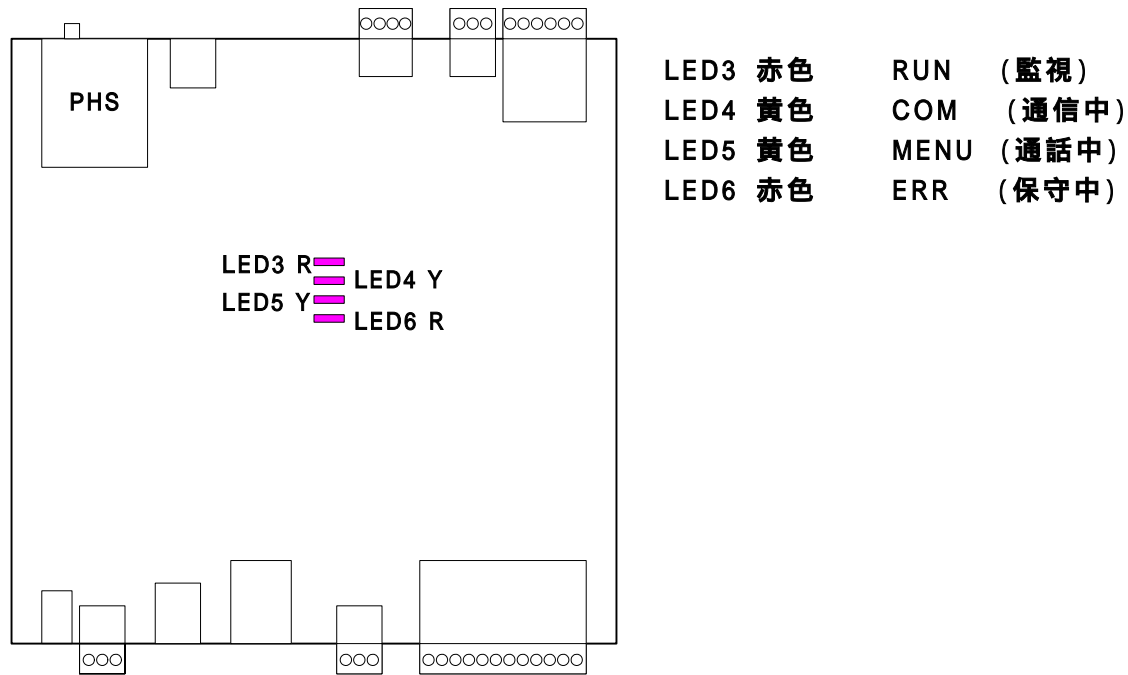


図4.2.1-1 実装図(NTT回線 LED)

1) 初期化～監視中

電源を投入します

4.1項を参照

図4.2.1-2に示すようにLED3～LED5が点灯し最終的にLED3が点滅すれば準備完了です.

-1 初期化中

LED3,LED4,LED5が順次点滅

-2 監視中

LED3のみ点滅

初期化中

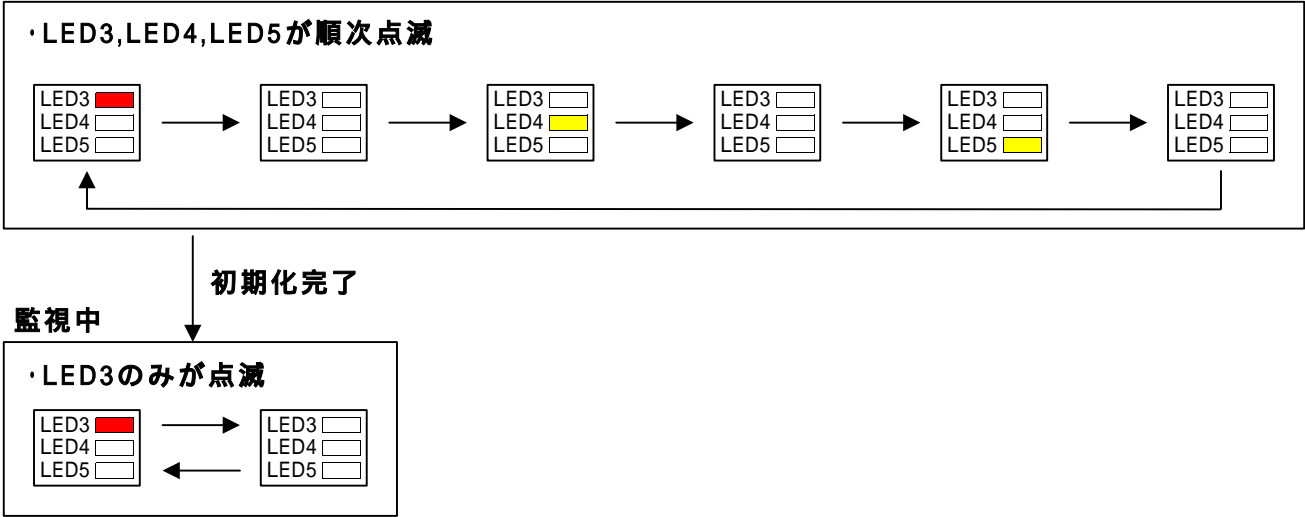


図4.2.1-2 状態LEDの遷移(初期化～監視中)

2) 着信確認

電話機(携帯電話)より、本装置の電話番号をダイヤルします。

ダイヤル後、受話器より呼び出し音が数回聞こえます。

呼び出し音の後に”ピー”という連続音が受話器より聞こえます。

連続音が止まると通話状態になります。

・通話中はLED4のみが点滅します。

発信側より通話を終了することで回線を切断します。

・回線切断後は、監視中に戻りLED3のみが点滅します。

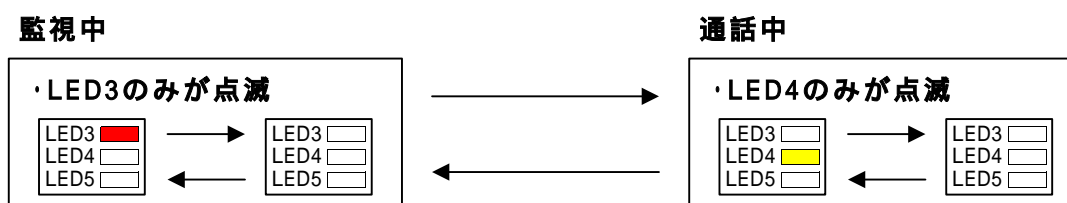


図4.2.1-3 状態LEDの遷移(音声着信)

4.2.2 PHS回線

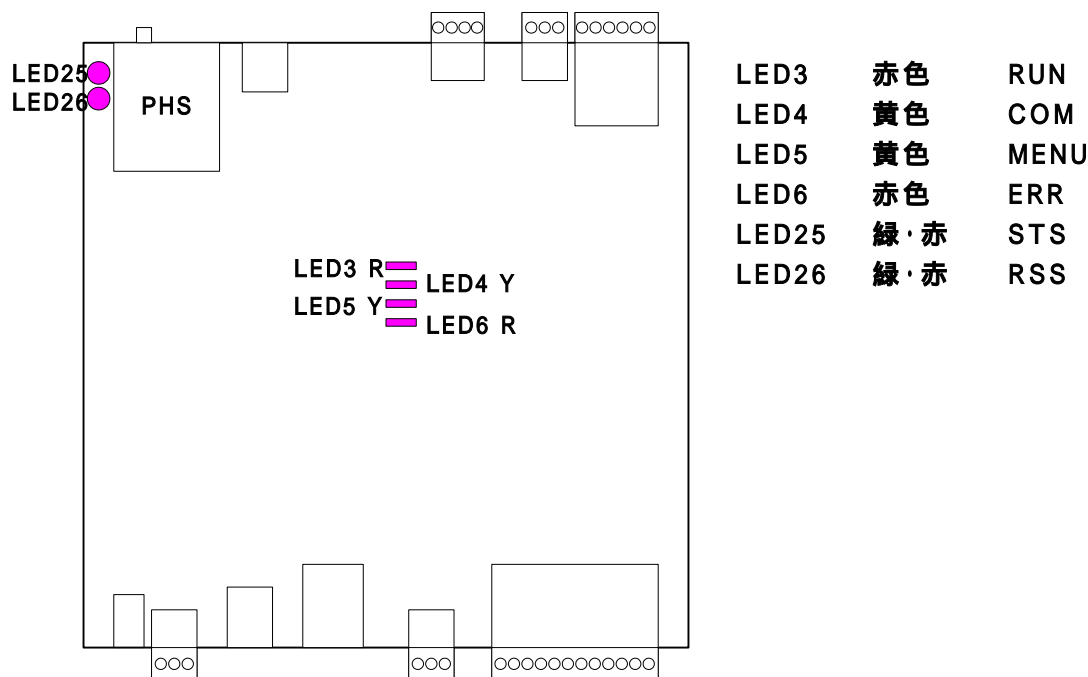


図4.2.2-1 実装図(PHS回線 LED)

1) 初期化～監視中

電源を投入します

4.1項を参照

図4.2.2-2に示すようにLED3～LED5が点灯し最終的にLED3が点滅すれば準備完了です。

-1 初期化中

LED3,LED4,LED5が順次点滅

-2 監視中

LED3のみ点滅

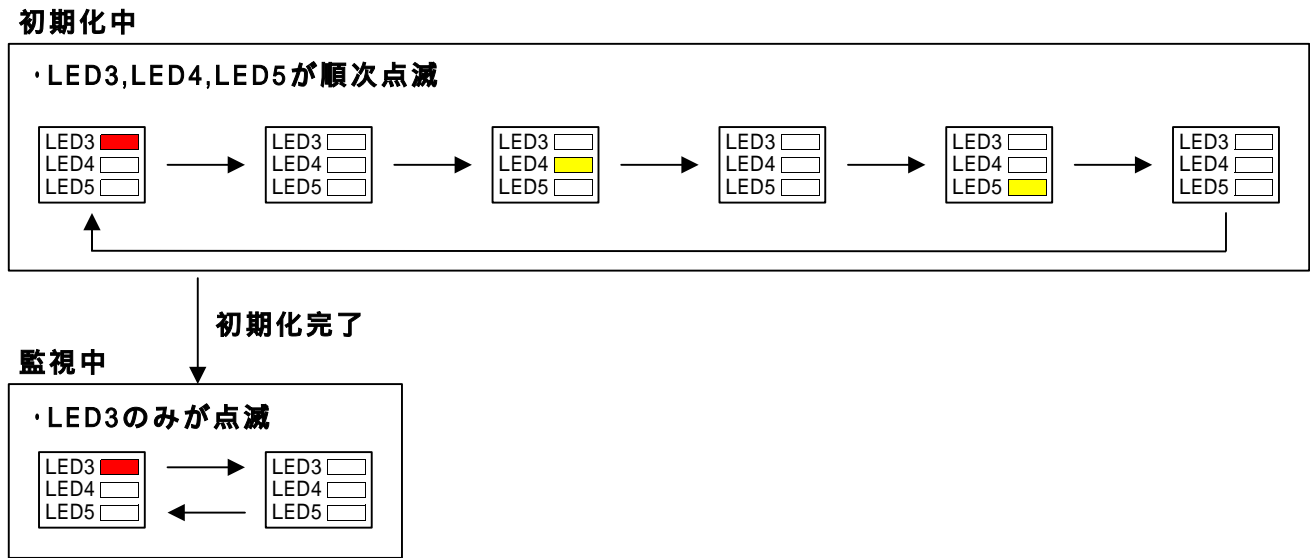


図4.2.2-2 状態LEDの遷移(初期化～監視中)

2) 電波状態の確認

図4.2.2-3に示すRSS(LED26)の表示内容で電波の状態を確認します。



図4.2.2-3 電波状態(LED26)の表示内容

3) 着信確認

電話機(携帯電話)より、本装置の電話番号をダイヤルします。
 ダイヤル後、受話器より呼び出し音が数回聞こえます。
 呼び出し音が止まると通話状態になります。
 発信側より通話を終了することで回線を切断します。

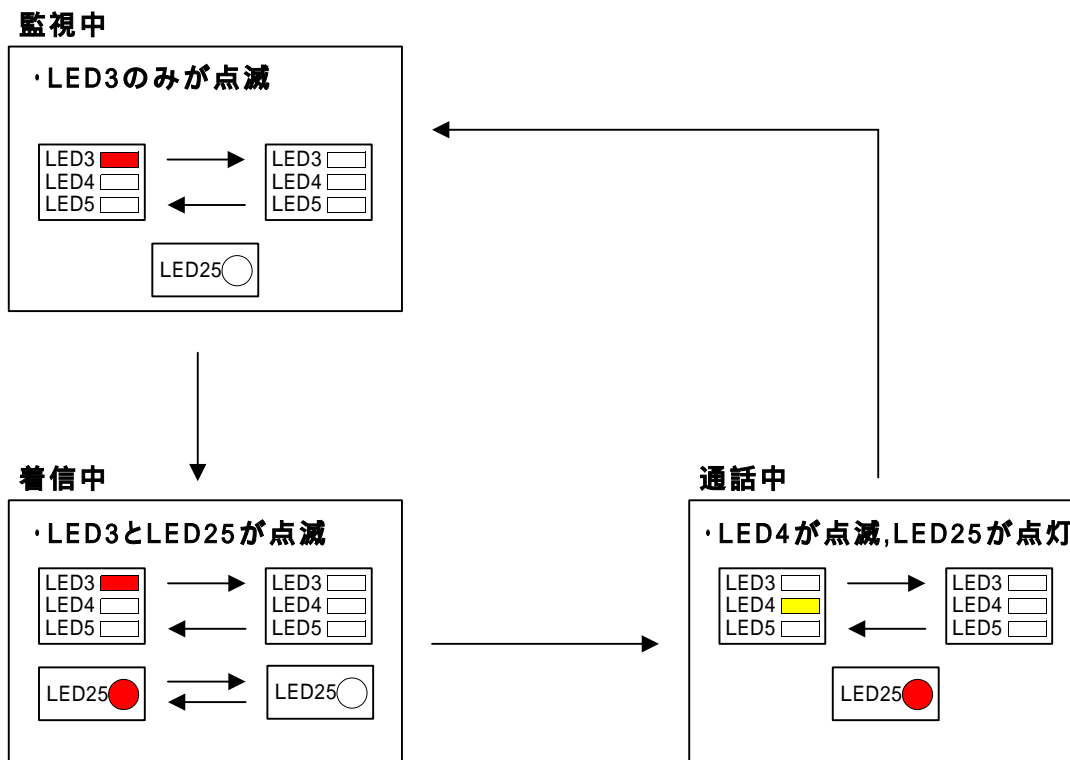


図4.2.2-4 状態LEDの遷移(PHS音声着信)

【注意】

呼び出し音の代わりにメッセージが聞こえた場合、

「おかけになった電話は電波が届かない場所にあるか電源が入っていません・・・」

・開通済みであるが、電波が届かない。

「おかけになった電話番号は現在使われておりません・・・」

・開通手続きが未完了。

・開通済みであるが、基地局に対して位置情報が登録できていない。

4.3 アナウンスの録音

音声着信確認が完了したら、6項 設定作業で述べるアナウンスの録音を行って下さい。

- | | | |
|-------|-------------|----|
| # # 8 | かご内アナウンスの録音 | 任意 |
| # # 9 | 現場名アナウンスの録音 | 必須 |

4.4 音声発信確認

4.4.1 前準備/確認事項

1) 発信する前に以下の注意事項を必ずご確認ください。

- a) インターフォン電源電圧の確認 (6V単/多局:5.0~7.0, 24V単/多局:22~26V)
- b) NTT電話回線の電圧(モデム版のみ) (DC48V~50V)
- c) PHSの場合、加入契約の手続がされていること。
- d) あらかじめ、発報先電話番号やSakuraID等のデータを設定ツールで登録してください。
- e) センター側の機器が受信待機状態であること。
- f) センター側のデータベースに設置するエレベータの基本情報がすでに登録されていること。

4.4.2 発信動作・着信動作の確認

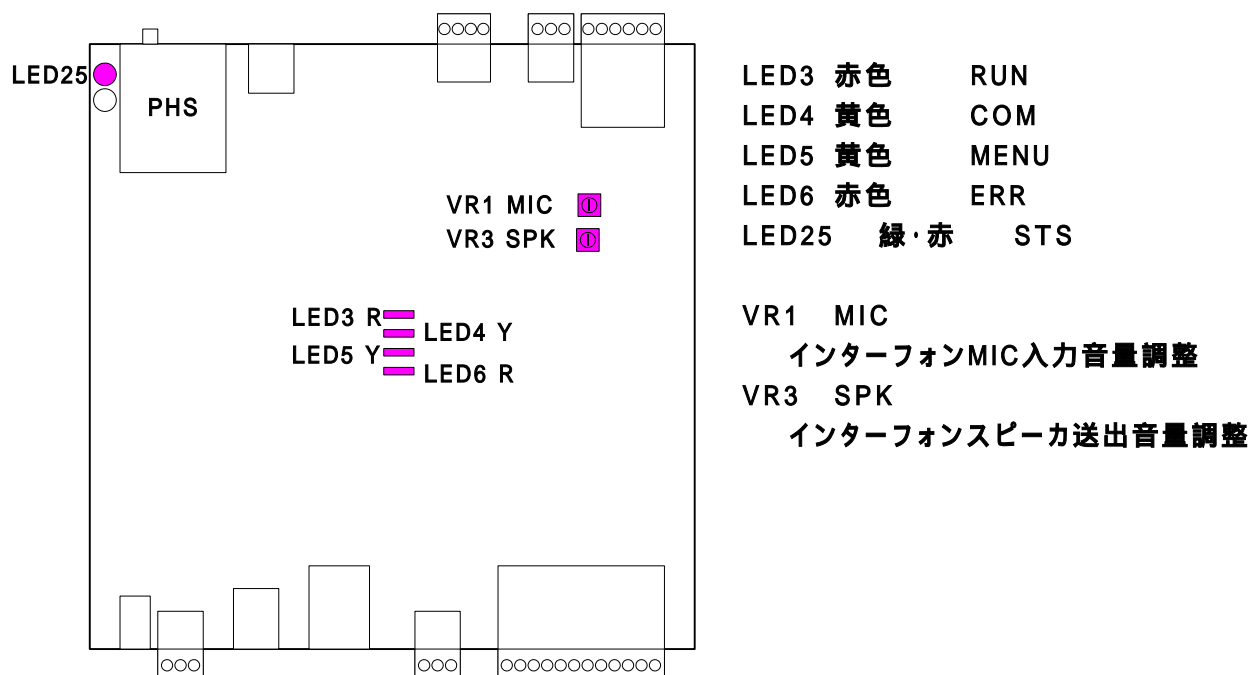


図4.4.2-1 実装図(状態LED)

1) 発信動作確認

かご内インターフォン子機の非常釦を3秒間押す。

非常釦が押された事を感じし発信動作を開始します。(非常音発鳴します)

かご内子機にアナウンス(かご内アナウンス)が再生され、設定された電話番号に発信します。
 設定された"非常音声連絡先電話番号1"に発信し

「無応答」「話中」等で相手に接続できない場合は、次の電話番号に発信します。

"非常音声連絡先電話番号1" "非常音声連絡先電話番号2"

接続されるまで、4サイクル(8回)繰り返します。

1:"非常音声連絡先電話番号1" "非常音声連絡先電話番号2"

2:"非常音声連絡先電話番号1" "非常音声連絡先電話番号2"

3:"非常音声連絡先電話番号1" "非常音声連絡先電話番号2"

4:"非常音声連絡先電話番号1" "非常音声連絡先電話番号2"

非常音声連絡先電話番号2が未設定の場合は、4サイクル(4回)繰り返します。

1:"非常音声連絡先電話番号1"

2:"非常音声連絡先電話番号1"

3:"非常音声連絡先電話番号1"

4:"非常音声連絡先電話番号1"

相手が応答すると"Taroid(DTMF-ID)"を通知後、相互通話が可能となります。

Taroid(DTMF-ID)が未設定の場合は、即相互通話となります。

Taroid(DTMF-ID)は通常、音声にて通知します。

相互通話は通常、4分間可能です。

相互通話可能時間の10秒前に警告音が流れ、相互通話可能時間を過ぎると自動切断します。

相互通話中の確認内容は"4.4.3 通話中の動作確認"を参照してください。

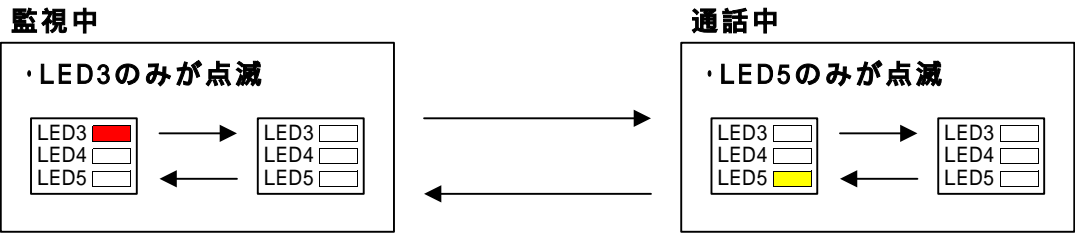


図4.4.2-2-a 状態LEDの遷移(NTT音声発信)

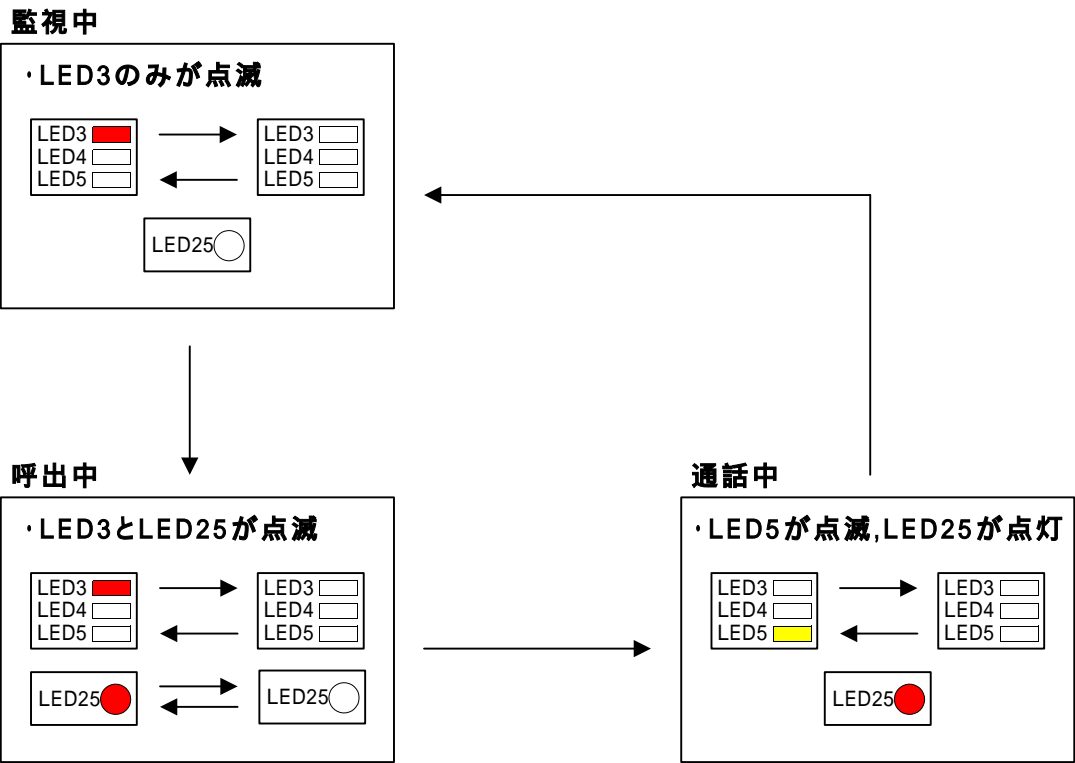


図4.4.2-2-b 状態LEDの遷移(PHS音声発信)

2) 着信動作確認

【NTT回線の場合】

電話機(携帯電話)より、本装置の電話番号をダイヤルします。

ダイヤル後、受話器より呼び出し音が数回聞こえます。

呼び出し音の後に”ピー”という連続音が受話器より聞こえます。

連続音が止まると相互通話状態になります。

単局の場合は#1、多局の場合は#1～#4のどれか子機を選択し、相互通話状態になります。

詳細は ”4.4.3 通話中の動作確認”を参照してください。

発信側より通話を終了することで回線を切断します。

相互通話可能時間を越えると自動切断します。

相互通話中の確認内容は”4.4.3 通話中の動作確認”を参照してください。

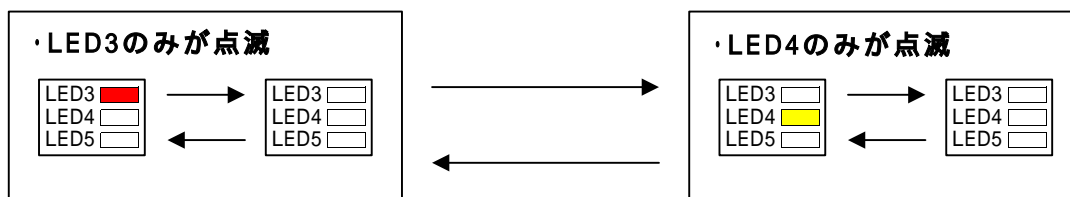


図4.4.2-3-a 状態LEDの遷移(NTT音声着信)

【PHS回線の場合】

電話機(携帯電話)より、本装置の電話番号をダイヤルします。

ダイヤル後、受話器より呼び出し音が数回聞こえます。

呼び出し音が止まると相互通話状態になります。

単局の場合は#1、多局の場合は#1～#4のどれか子機を選択し、相互通話状態になります。

詳細は ”4.4.3 通話中の動作確認”を参照してください。

発信側より通話を終了することで回線を切断します。

相互通話可能時間を越えると自動切断します。

相互通話中の確認内容は”4.4.3 通話中の動作確認”を参照してください。

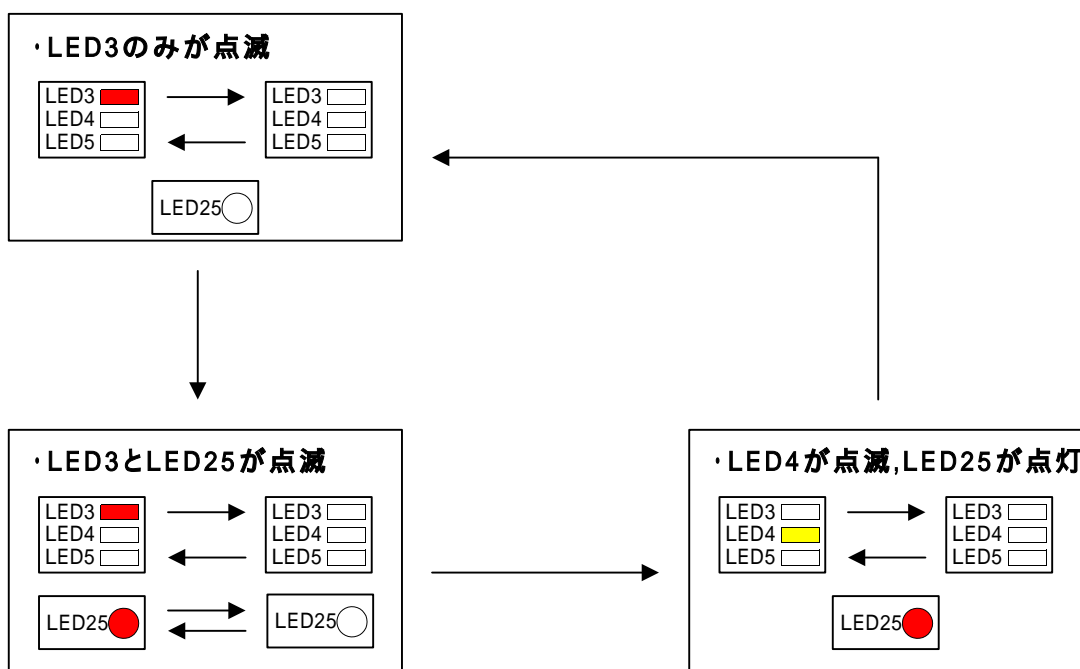


図4.4.2-3-b 状態LEDの遷移(PHS音声着信)

4.4.3 通話中の確認

1) 音量の調整

インターフォンマイク感度

VR1 MICを精密マイナスインプダを使用して調整します。

インターフォンスピーカ音量

VR3 SPKを精密マイナスインプダを使用して調整します。

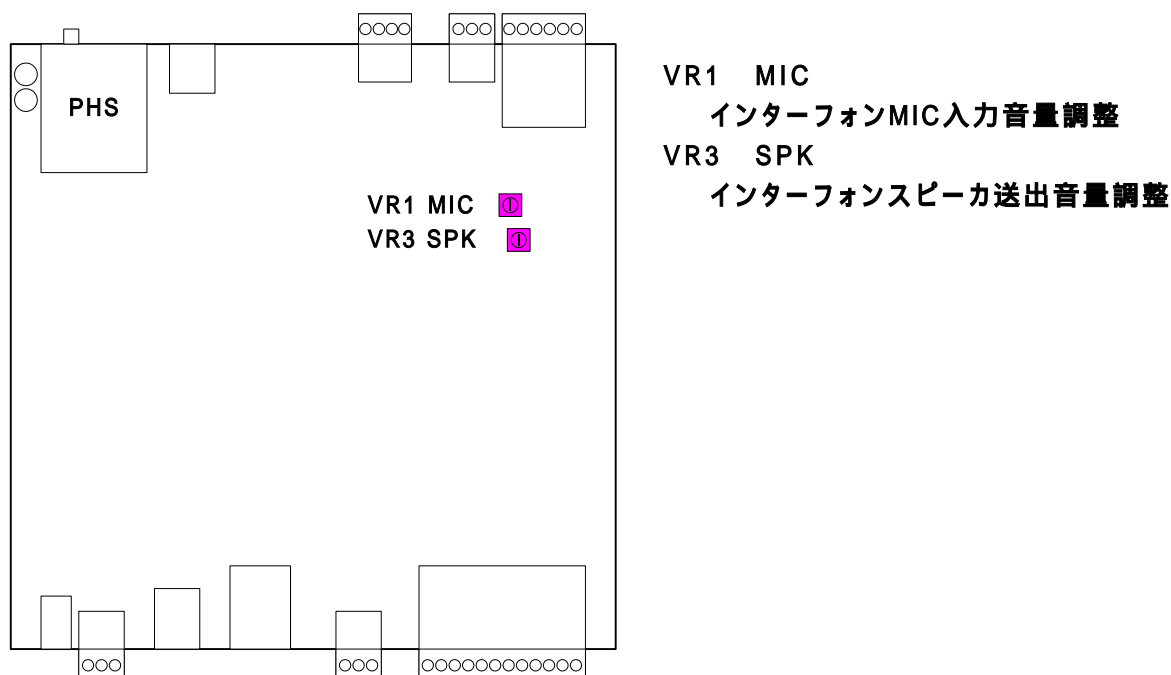


図4.4.3-1 実装図(調整用ボリューム)

2) 現場名アナウンス

センター側電話機より” # * ”を入力すると” # # 9 ”で録音した現場名アナウンスを再生します。

3) インターフォンの子機選択

センター側電話機より下記のコマンドを入力することで子機を選択できます。(単局・多局共に操作ください)

- # 1 1号機を選択します(1号機に切り替えます)
- # 2 2号機を選択します(2号機に切り替えます)
- # 3 3号機を選択します(3号機に切り替えます)
- # 4 4号機を選択します(4号機に切り替えます)

- # 0 1 1号機を追加選択します(会議モード)
- # 0 3 2号機を追加選択します(会議モード)
- # 0 3 3号機を追加選択します(会議モード)
- # 0 4 4号機を追加選択します(会議モード)

- # 9 選択中の子機を接続解除します。

4.5 保守開始・保守終了の確認

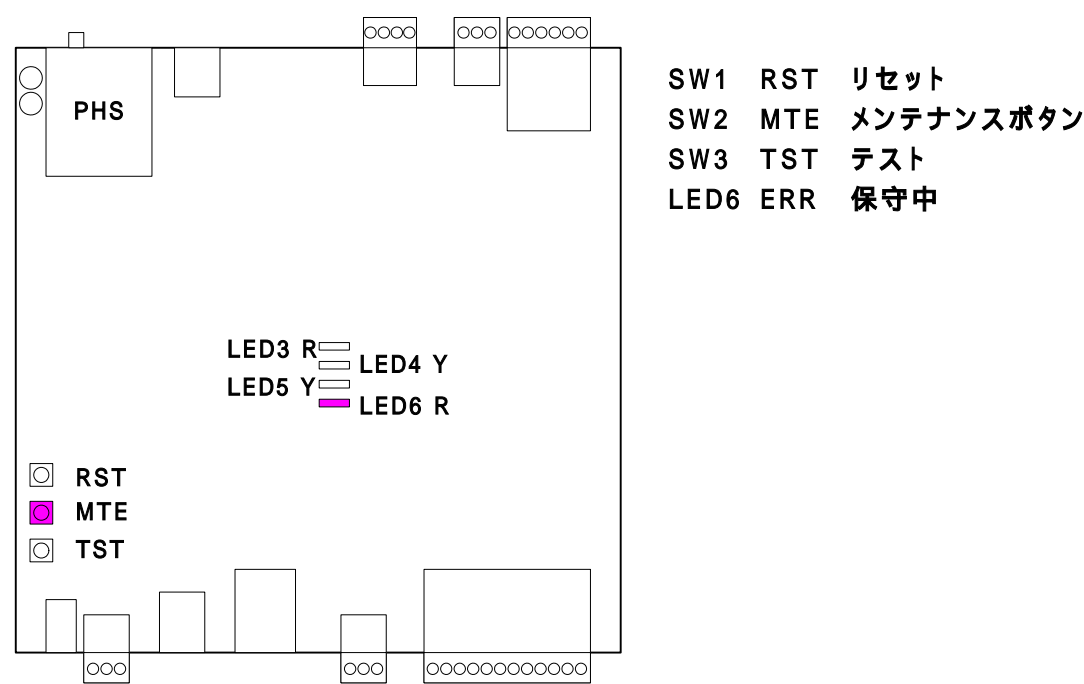


図4.5-1 実装図(メンテナンス ボタン)

- 1) 保守開始
- a. メンテナンスボタンを規定時間(*1)以上押下します .

b. メンテナンスボタンを離した後 , 開始発報遅延時間(*2)を経過するとLED6が点滅しセンターへ発報します .
- 2) 保守終了
- a. 保守中(LED6点滅中)にメンテナンスボタンを規定時間(*1)以上押下します .

b. メンテナンスボタンを離した後 , 終了発報遅延時間(*3)を経過するとLED6の点滅が消えセンターへ発報します .
- 3) 「外付けメンテナンス スイッチ」を取り付けた際の保守開始 (オプション)
- a. オプションの外付けメンテナンス スイッチを主基板に取り付ける . (16/41頁を参照)

b. 設定ツールでメンテナンスボタン 外付けメンテナンス スイッチに切り替える .

c. スイッチを「0」側に倒すと , 保守開始発信遅延時間後(*2)にセンターの監視PCに「保守開始」を発信します .
- 4) 「外付けメンテナンス スイッチ」を取り付けた際の保守終了 (オプション)
- a. スイッチを「 1 」側に倒すと , 保守終了発信遅延時間後(*3)にセンターの監視PCに「保守終了」を発信します .

* 1 保守スイッチ検出時間	標準 5 秒	設定ツールで変更可能
* 2 保守開始発報遅延時間	標準 5 秒	設定ツールで変更可能
* 3 保守終了発報遅延時間	標準 3 0 秒	設定ツールで変更可能

4.6 ポートアラームの確認

1) アラームの生成

- a. 各ポートに接続した信号を用いてアラームを発生させます.
- b. ポートアラームを検出するとセンターに発報します.
- c. 一度発報したポートアラームは一定時間(*1)経過しないと発報しません.

*1 アラームマスク時間 標準 60分 設定ツールで変更可能

5 終了作業

1) バッテリーの接続

ACアダプター添付品(DS6-**-*B*)の場合、J2-BATに付属のバッテリーを接続します。

注意) バッテリーは消耗品です、2年をめぐに交換をお願いします。

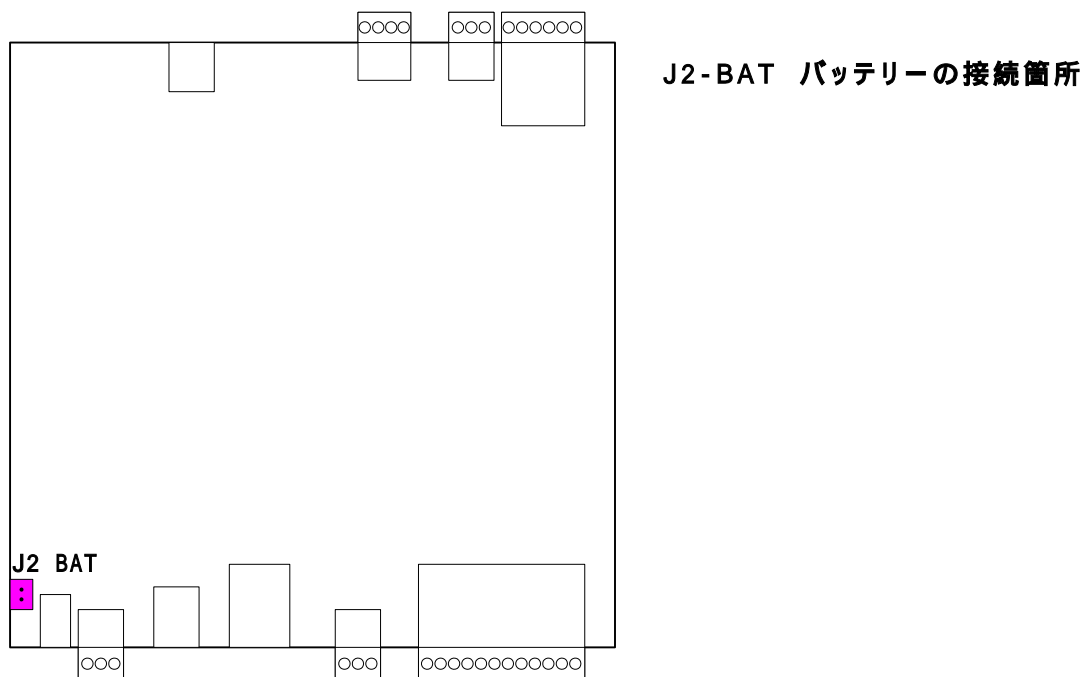


図5.1-1 バッテリーの接続箇所

2) 上蓋を閉じる

本装置の上蓋を閉じます。

6 設定作業

6.1 設定手順

1) 着信操作

電話機(携帯電話)より本装置の電話番号をダイヤルする。
通話状態になるのを待つ。

2) ログイン操作

##09999 を入力します。
本装置は結果を音声で応答します。

3) 情報の設定操作

##1から##9のコマンドを使用して情報の設定を行います。
各コマンドの詳細は「6.2 設定コマンド」を参照してください。

##1	非常音声連絡先電話番号1	必須
##2	非常音声連絡先電話番号2	任意
##3	データ通報先電話番号1	必須
##4	データ通報先電話番号2	任意
##5	Taroid(DTMF-ID)	任意
##6	非常音声発信待ち時間	任意
##7	Taroモード	任意(NTT回線でDPの場合は必須)
##8	かご内アナウンス録音	任意
##9	現場名アナウンス録音	必須

アナウンス録音以外の設定は設定ツールでも可能です。

4) 回線の切断

必要な設定が完了したら、通話を終了します(オンフック)。
標準的な通話時間は約4分です、通話時間を経過すると本装置は回線を自動切断します。

6.2 設定コマンド

【##0】ログイン

機能 設定モードにログインします。
 入力 ##09999
 備考 パスワードの後ろに*#を入力する必要はありません。

【##1】非常音声連絡先電話番号1

必須

【##2】非常音声連絡先電話番号2

任意

【##3】データ通報先電話番号1

必須

【##4】データ通報先電話番号2

任意

機能 非常音声連絡先電話番号1, 2を登録します。
 データ通報先電話番号1, 2を登録します。

形式 ##1 ttt... ttt * #
 ##2 ttt... ttt * #
 ##3 ttt... ttt * #
 ##4 ttt... ttt * #

ttt... ttt: 非常音声連絡先電話番号
 最大20桁(0~9, #)
 #は桁間ポーズ3secを表します。

入力例 ##10454781234*# 045-478-1234を非常音声連絡先電話番号1に登録。
 ##29#0123456789*# 9-ポーズ-012-345-6789を非常音声連絡先電話番号2に登録。
 ##30454781235*# 045-478-1235をデータ通報先電話番号1に登録。

備考 未設定で出荷。

【##5】Taroid (DTMF-ID)

任意

機能 Taroidを登録します。

形式 ##5 ttt... ttt * #
 ttt... ttt: Taroid
 最大16桁の数字

入力例 ##51112345*# 1112345をTaroidに登録。

備考 未設定で出荷。
 Taroidは利用者が任意に設定できる, 本装置の識別番号です。
 非常通話発報時に自動でセンター側に通知します。
 利用者はこの識別番号を現場を特定する為に使用することができます。
 本装置では, 後で述べる「現場名アナウンス」でも現場を特定できます。

【##6】非常音声発信待ち時間

任意

機能 非常音声発信待ち時間を登録します。

形式 ##6 nnn * #
 nnn: 非常音声発信待ち時間(秒)を3桁の数字(1~255)で指定

入力例 ##610*# 10秒を指定。

備考 出荷時の値は6秒。

【##7】Taroモード

任意

機能 Taroモードを設定します。

形式 ##7nmijk*#

n: 電話回線種別の指定 (PHS回線では無効)

0 = PB - Tone

1 = DP 20PPS

2 = DP 10PPS

m: 発信機能の指定

0 = ##6で指定した時間内に親機が応答したら非常音声発信を行わない。

1 = 親機応答の有無に関わらず常に非常音声発信を行う。

2 = 本装置では指定不可能。(Taro4機能)

l: 着信時の応答方法の指定

0 = 音声応答。

1 = 自動判別。

2 = データ応答。

3 = 着信拒否。

j: 電源制御の指定 (本装置では無効)

0 = 未使用。

1 = 工場出荷。

k: 非常音声発信時のブザーとアナウンスの制御の指定

0 = ブザー無し, アナウンス有り

1 = ブザー有り, アナウンス有り

2 = ブザー有り, アナウンス無し

3 = ブザー無し, アナウンス無し

4 = ブザー無し, アナウンス無し

入力例 ##710111*#

備考 出荷時の値は"01111"です。

n = 0: PB - Tone

m = 1: 親機応答の有無に関わらず常に非常音声発信を行う

l = 1: 自動判別

j = 1: 工場出荷

k = 1: ブザー有り, アナウンス有り

着信時の応答方法に下記の値を指定した場合は、外部電話機からの着信による設定変更はできません。

l=2 (データ応答)

l=3 (着信拒否)

この場合、非常通報発報を行って、相手電話機よりログイン操作をすれば設定変更可能です。



注意 パラメータの設定コマンド##7m = 0「##6で指定した時間内に親機が応答したら非常音声を行わない」に設定されていて、尚且つ##6の設定時間内に親機が応答した場合は、かご内にアナウンス再生 (只今、センターに接続中です。しばらくお待ちください) されるが、直接通話の発報は行いません。この動作は、かご内の閉じ込められた方が親機 (外部連絡者) と連絡が取れたと判断されたためです。

【##8】かご内アナウンス

任意

機能 かご内アナウンスを録音

形式 ## 8

入力例 ## 8

動作 ## 8を入力すると音声ガイダンスが受話器より聞こえる.

"ピー"と言う音が聞こえたら録音開始

送話器よりの音声を7秒間録音する.

備考 出荷時の録音内容は,下記の通り

「ただいまセンターへ接続中です.しばらくお待ちください.」

出荷時の録音内容に戻すには「* * 3 8 0 0 * #」を入力して下さい.

【##9】現場名アナウンス

必須

機能 現場名アナウンスを録音

形式 ## 9

入力例 ## 9

動作 ## 9を入力すると音声ガイダンスが受話器より聞こえる.

"ピー"と言う音が聞こえたら録音開始

送話器よりの音声を12秒間録音する.

備考 出荷時は録音されていません(無音).

【* * 3800】かご内アナウンスの消去

任意

機能 かご内アナウンスを出荷時の録音内容に戻す

形式 * * 3 8 0 0 * #

入力例 * * 3800 * #

動作 かご内アナウンスを出荷時の録音内容に戻す.

備考 新たに録音する場合は「##8」を使用して下さい.

7. その他

7.1 バッテリー交換 (ACアダプター添付品: DS6-**-B*)

バッテリーは消耗品です, 2年をめぐに交換をお願いします.

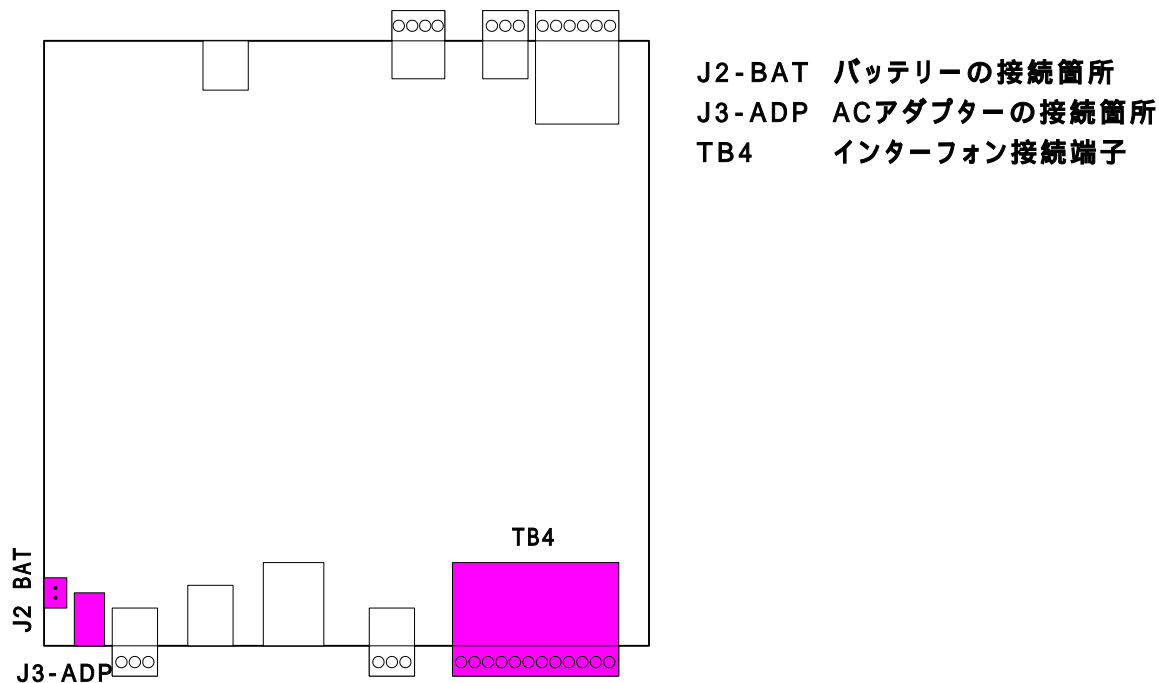


図 7.1-1 バッテリー

1) 交換手順

上蓋を取り外す

接続中の配線を取り外す

バッテリー配線 J2-BATよりコネクターを抜く

ACアダプター J3-ADPよりコネクターを抜く

インターフォン TB4よりコネクターを抜く

基板を取り外す

バッテリーを交換する

基板を取り付ける

インターフォン TB4にコネクターを挿す

ACアダプター J3-ADPにコネクターを挿す

バッテリー配線 J2-BATにコネクターを挿す

上蓋を取り付ける

8. インターフォン信号真理値表

8.1 6V単局 / 6V多局LEDランプ動作表示

基板のLED部品配置図は41ページをご覧ください。

LED番号	6V単局				
	発報時			着信時	
	待機	非常ボタン押下げ	通話中	選局なし	選局
LED11	OFF	ON	OFF	OFF	OFF
LED12	OFF	ON	ON	OFF	ON

LED番号	6V多局				
	発報時			着信時	
	待機	非常ボタン押下げ	通話中	選局なし	選局
LED11	OFF	ON	OFF	OFF	OFF
LED12	OFF	ON	ON	OFF	ON
LED13	OFF	ON	ON(1号機)	OFF	ON(1号機)
LED14	OFF	OFF	ON(2号機)	OFF	ON(2号機)
LED15	OFF	ON(1号機)	ON(1号機)	OFF	ON(1号機)
LED16	OFF	ON(2号機)	ON(2号機)	OFF	ON(2号機)
LED17	OFF	ON(3号機)	ON(3号機)	OFF	ON(3号機)
LED18	OFF	ON(4号機)	ON(4号機)	OFF	ON(4号機)
LED19	OFF	OFF	ON(3号機)	OFF	ON(3号機)
LED20	OFF	OFF	ON(4号機)	OFF	ON(4号機)

8.2 24V単局 / 24V多局LEDランプ動作表示
基板のLED配置図は40ページをご覧ください。

LED番号	24V単局				
	発報時			着信時	
	待機	非常ボタン押下げ	通話中	選局なし	選局
LED11	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
LED12	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
LED13	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
LED14	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
LED15	OFF	OFF	ON	OFF	ON
LED20	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
LED21	OFF	ON	OFF	OFF	OFF
LED22	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
LED23	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
LED24	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF

LED番号	24V多局				
	発報時			着信時	
	待機	非常ボタン押下げ	通話中	選局なし	選局
LED11	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
LED12	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
LED13	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
LED14	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
LED15	OFF	OFF	ON(1号機)	OFF	ON(1号機)
LED16	OFF	OFF	ON(2号機)	OFF	ON(2号機)
LED17	OFF	OFF	ON(3号機)	OFF	ON(3号機)
LED18	OFF	OFF	ON(4号機)	OFF	ON(4号機)
LED19	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
LED20	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
LED21	OFF	ON(1号機)	OFF	OFF	OFF
LED22	OFF	ON(2号機)	OFF	OFF	OFF
LED23	OFF	ON(3号機)	OFF	OFF	OFF
LED24	OFF	ON(4号機)	OFF	OFF	OFF

【付録 1】装置仕様

表 付録1-1 動作環境仕様

項目	仕様	
動作温度	0 ~ +45	
保存温度	-20 ~ +60 (梱包状態で)	
動作湿度	30 ~ 80%	
保存湿度	5 ~ 95% 結露なきこと (保存は保管梱包状態であること)	
温度上昇	+15 以下であること、ただし放熱器などは除く	
周囲雰囲気	腐食ガスがないこと、一般事務所程度	
漏洩電流	3.5mA以下	
絶縁抵抗	DC 500Vの試験電圧により3M 以上の絶縁抵抗であること。	
絶縁耐力	AC 1000Vの試験電圧により1分間耐えること。 または、AC 1200V試験電圧により1秒間耐えること。	
電圧変動	定格電圧 $\pm 10\%$ で誤動作しないこと。	*1
始動電圧	定格電圧の85%、115%での電源投入動作が正常に行なえること。	
瞬断	90% 0% 90%の瞬断で1サイクル継続しても正常に動作すること。	
突入電流	コールドスタートおよび、ホットスタート 42A以下、持続時間0.5秒以下	
*1 ACアダプターを使用した場合(DT6-**-B*)		

表 付録1-2 一般仕様

項目	細項目	仕様	
電源	DC電源	DC9V $\pm 0.5V$ 、MAX600mA	*1
	AC電源	AC100V $\pm 10\%$ 100VA	
電池	種類	ニッケル水素電池 7.2V 1300mAh	*2
	充電方式	トリクル充電	
	停電補償時間	30分以上	
	交換時期	2-3年	
耐振動		JIS C 0911準拠	
耐衝撃		JIS C 0912準拠	
発生塵埃		なきこと	
外形		245(L)×195(D)×60(H) 突起物はふくまない	
重量			
*1 客先DC9Vを使用した場合(DT6-**-N*)			
*2 ACアダプターを使用した場合(DT6-**-B*)			

表 付録1-3 通信仕様

通信モジュール	項目	仕様
NCU (Modem機能)	適用回線	NTT公衆回線
	接続コネクタ	RJ 11 (モジュラー6極2芯)
	選択信号	DP (10PPS/20PPS) PB
	直流抵抗	334
	網制御機能	自動 (AA)
	自動発信・リダイヤル機能	有り
Modem	通信方式	V22bis準拠
	同期方式	非同期
	変調方式	QAM(2400bps)
	通信速度	2400bps
	送信レベル	-9dbm
	受信レベル	-9 dBm ~ -43 dBm
	不感動受信レベル	-45dBm
	技術基準適合番号	A08-0133004
PHS (PAU-702)	周波数帯	1884.65MHz ~ 1919.45MHz
	通信方式	時分割多元接続方式を使用する時分割複信方式
	伝送速度	384kbit/s
	技術基準適合番号	A06-0213001 , 001JXAA1138

【付録 2】 特記事項**1) 電源モジュール無しタイプ (DS6- * - * N *)****a. 外部電源 (DC9V) 要求仕様**

- ・無停電保証電源であること。
- ・DC9V \pm 0.5V (電流容量100mA ~ 600mA) , リップルノイズ50mV以下 , ピークノイズ無きこと。

2) NTT回線タイプ (DS6-M- * * *)

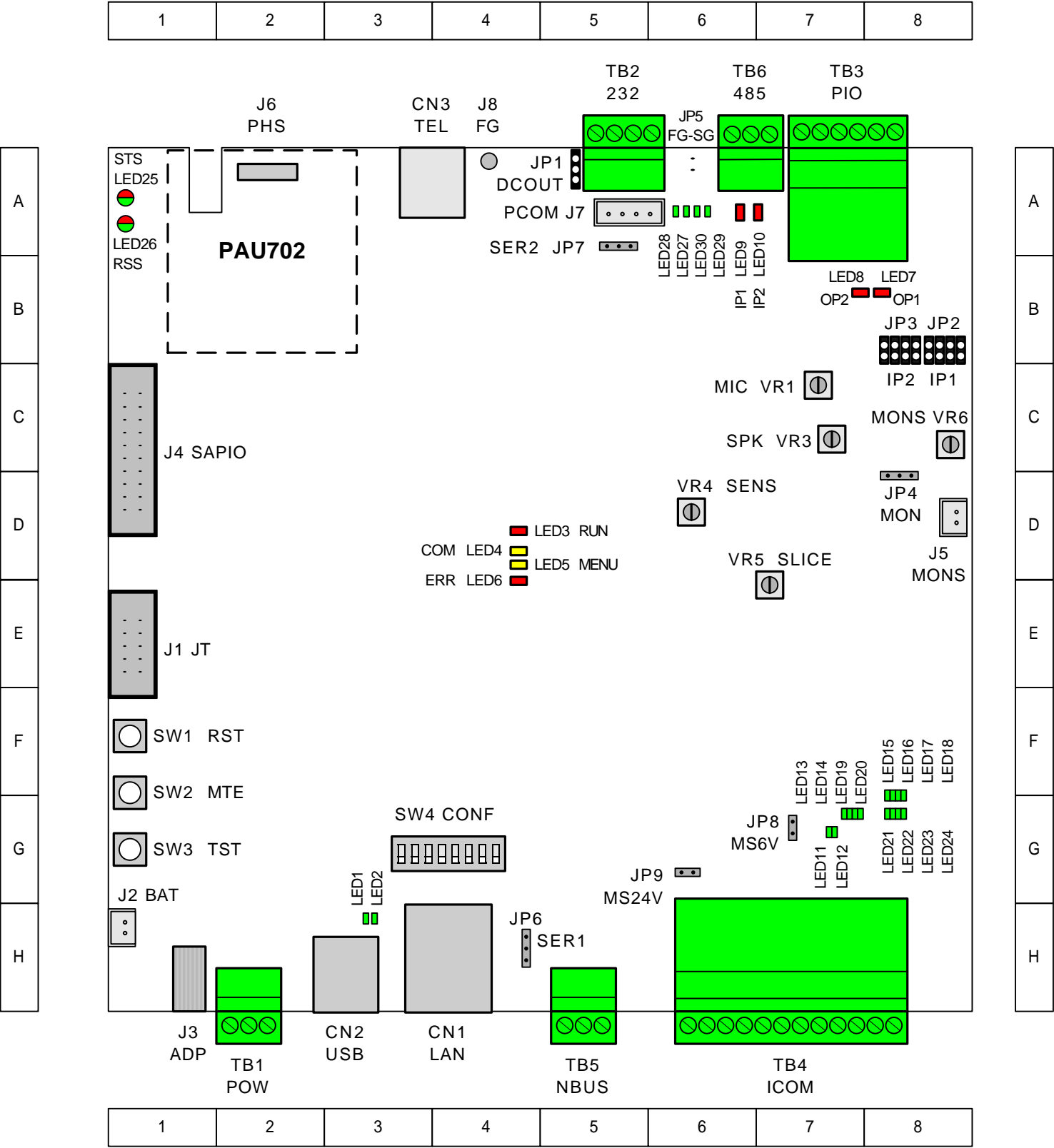
本装置の直流回路の抵抗値は334 です。

線路抵抗条件によってはご使用できませんのでご注意ください。

3) 関連資料

T001 188J	Sakura6	取り扱い説明書-製品概要編	
T001 189J	Sakura6	取り扱い説明書-取付け編	(本資料)
T001 190J	Sakura6	取り扱い説明書-DTMFコマンド編	
T001 191J	Sakura6	取り扱い説明書-設定ツール編	

【付録 3】 部品配置図



注意) 型番によっては実装されていない部品もあります。

図 付録3-1 部品配置図(ROCSAA2)

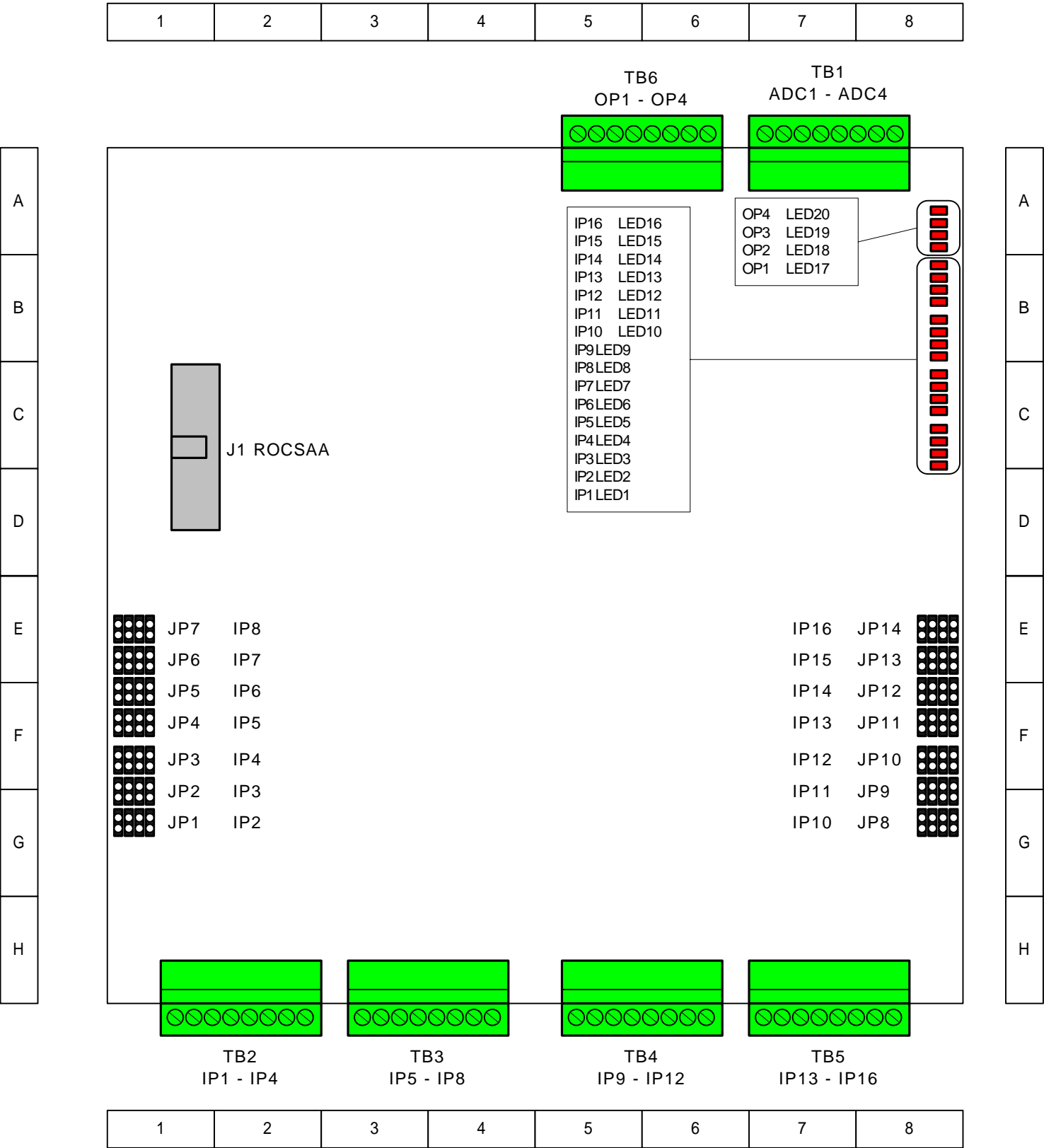


図 付録3-2 部品配置図(SAPIO2)